

6. 居住者の意向

6.1 アンケート調査の概要と結果

6.1.1 アンケート調査の概要

伝建地区の防災に関わる住民意識と生活実態を把握するためアンケート調査を行った。配布回収は平成19年9月に行い、回収総数は103票であった。回答は無記名で、伝建地区内に居住、あるいは建物を所有している世帯主に対して求めた。

アンケート集計結果について、集計表の比較は、すべて百分率(%)で表し、小数点2位を四捨五入して算出している。したがって、合計が100%にならない場合がある。また、設問の中には、2つ以上の回答を求める設問(複数選択回答)があり、各回答の合計比率が100%を超える場合がある。

アンケート配布、回収状況

	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	計
回収票数	17	6	6	11	43	20	103

アンケート項目の構成

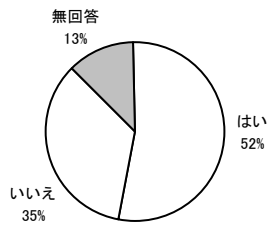
1. 家屋の現況について ①伝統的建造物(特定物件)の同意、②建物用途、③居住開始時期、④居住意志、⑤後継者の有無、⑥自動車の所有、⑦駐車場の有無、⑧家屋の住みよい点、⑨家屋の住みにくい点、⑩建物の所有、⑪土地の所有
2. 地域について ①地域環境、②観光客、③まちの将来像、④近所つきあい、⑤行事への参加
3. 災害履歴について ①災害履歴
4. 災害などの発生について ①不安に思っている災害、②災害時の対応、③災害時に頼る人、④災害情報の入手
5. 避難について ①避難場所、②避難所等の認知、③避難所等以外に避難する理由、④避難所等までの安全な避難経路、⑤避難時の不安
6. 災害などへの備え ①家庭で備えている防災設備、②家庭で備えている準備品
7. 防災活動 ①消防団の認知、②防災訓練への参加、③多くの人が参加する防災訓練、④効果的な防災訓練
8. 地域防災設備 ①地域防災設備の認知、②地域防災設備の使用
9. 災害に強いまちづくりに向けた取り組み ①各家庭でできる取り組み、②町内でできる取り組み、③行政と協力することでできる取り組み
10. 自由意見 ①自由意見

6.1.2 アンケート調査の結果

1) 家屋の現況について

①伝統的建造物（特定物件）の同意

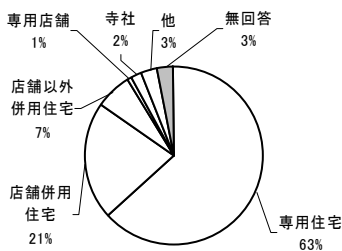
アンケート回答者のうち、半数以上（52.4%）が伝統的建造物（特定物件）に居住している。町別では、下河原町が67.4%と最も多く、ついで西新町が58.8%となっている。



	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
はい	58.8	16.7	33.3	36.4	67.4	40.0	52.4
いいえ	29.4	83.3	66.7	54.5	9.3	60.0	35.0
無回答	11.8	0.0	0.0	9.1	23.3	0.0	12.6

②建物用途

建物用途は「専用住宅」との回答が63.1%と最も多く、次に「店舗併用住宅」、「店舗以外の併用住宅」となっている。なお、下河原町や上河原町では「併用住宅」の割合が高くなっている。

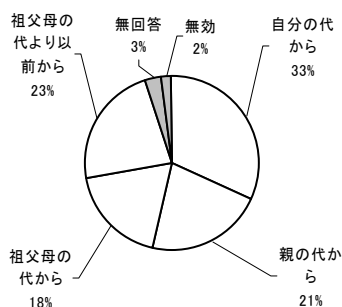


	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
専用住宅	82.4	50.0	66.7	81.8	51.2	65.0	63.1
店舗併用住宅	0.0	33.3	16.7	9.1	30.2	25.0	21.4
店舗以外の併用住宅	0.0	16.7	16.7	9.1	7.0	5.0	6.8
専用店舗	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	1.0
寺院・寺社	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	5.0	1.9
その他	11.8	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	2.9
無回答	5.9	0.0	0.0	0.0	4.7	0.0	2.9

③居住開始時期

居住開始時期は「自分の代から」との回答が32.0%と最も多く、次に「祖父母の代より以前から」、「親の代から」となっている。

町別では、西新町、東新町、上河原町では「自分の代から」が多く、居住年数が比較的浅い人が多いことがうかがえる。一方、南新町や下河原町では「祖父母の代より以前から」が多くなっている。なお、小川町では「親の代から」が多い。



	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
自分の代から	58.8	16.7	83.3	18.2	18.6	35.0	32.0
親の代から	23.5	16.7	0.0	36.4	23.3	15.0	21.4
祖父母の代から	5.9	16.7	16.7	27.3	18.6	25.0	18.4
祖父母の代より以前から	11.8	50.0	0.0	9.1	32.6	20.0	23.3
無回答	0.0	0.0	0.0	9.1	4.7	0.0	2.9
無効	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	5.0	1.9

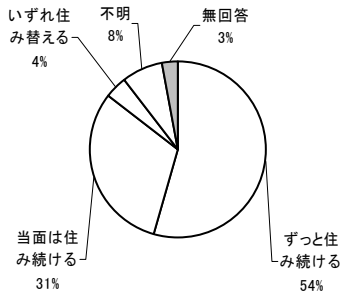
④居留意志

居留意志は「ずっと住み続ける」との回答が 54.4%と最も多く、次に「当面は住み続ける」となっている。これら 2つを合わせると 8割以上となり、地区内住民の定住意向の高さがうかがえる。

町別にみると各町で「ずっと住み続ける」の割合が高いが、小川町では「当面は住み続ける」の割合が高くなっている。

平成 15 年度調査と比較すると、町別同様、各町で「ずっと住み続ける」の割合が大きく高まっているが、小川町では「当面は住み続ける」の割合が高くなった。

上段：H19 調査 下段：H15 調査
単位：%



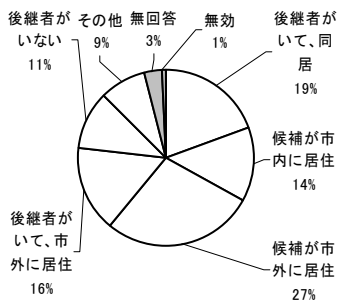
	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
ずっと住み続ける	70.6	83.3	50.0	36.4	44.2	65.0	54.4
当面は住み続ける	50.0	42.9	25.0	58.8	37.0	37.0	41.1
いずれ住み替える	11.8	0.0	33.3	54.5	39.5	25.0	31.1
不明	29.4	28.6	0.0	23.5	33.3	33.3	23.9
無回答	5.9	0.0	0.0	0.0	2.3	10.0	3.9
	2.9	14.3	25.0	5.9	1.9	1.9	6.1
不明	11.8	16.7	16.7	9.1	7.0	0.0	7.8
	8.8	14.3	0.0	11.8	13.0	13.0	11.1
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	0.0	2.9
	8.8	0.0	50.0	0.0	14.8	14.8	17.8

⑤後継者の有無

家屋の後継者が決定している回答（「後継者が同居」「後継者が市外に居住」）は 34.9%となっており、候補はあるが後継者となるかは未定である回答（「候補が市内に居住」「候補が市外に居住」）は 41.8%となっている。また、「後継者がいない」という回答も 10.7%あることから、地区内の半数以上の世帯において、後継者問題を抱えていることがうかがえる。

なお地区全体では「(後継者) 候補が市外に居住」との回答が 28.2%と最も多い。

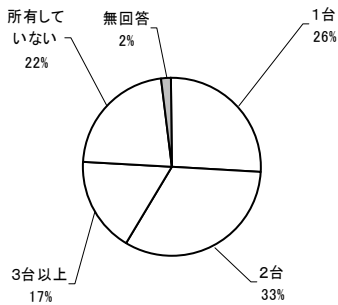
単位：%



	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
後継者が同居	11.8	33.3	16.7	9.1	20.9	25.0	19.4
候補が市内に居住	11.8	0.0	16.7	45.5	11.6	5.0	13.6
候補が市外に居住	35.3	50.0	16.7	18.2	27.9	25.0	28.2
後継者が市外に居住	17.6	0.0	16.7	27.3	11.6	20.0	15.5
後継者がいない	11.8	0.0	33.3	0.0	14.0	5.0	10.7
その他	5.9	16.7	0.0	0.0	11.6	10.0	8.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	10.0	2.9
無効	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0

⑥自動車の所有

自動車の所有は「2台」との回答が32%と最も多く、次に「1台」、「所有していない」となっている。
町別では、南新町、東新町、下河原町、上河原町で自動車を複数台所有する世帯が多い。なお小川町では「所有していない」の割合が高くなっている。



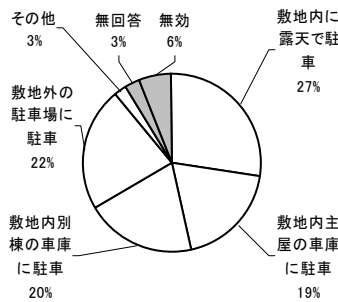
単位：%

	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
1台	47.1	50.0	16.7	18.2	23.3	15.0	26.2
2台	29.4	16.7	33.3	9.1	37.2	40.0	32.0
3台以上	0.0	33.3	33.3	27.3	16.3	20.0	17.5
所有していない	23.5	0.0	16.7	45.5	18.6	25.0	22.3
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	0.0	1.9

⑦駐車場の有無

自動車を所有する世帯の内、駐車場は「敷地内に露天で駐車」との回答が27.5%と最も多く、次に「敷地外の駐車場に駐車」となっている。

町別では、敷地間口にゆとりの少ない小川町や下河原町において「敷地外の駐車場に駐車」との回答が多くなっている。



単位：%

	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
敷地内に露天で駐車	23.1	50.0	60.0	16.7	22.9	26.7	27.5
敷地内主屋の車庫に駐車	15.4	16.7	0.0	0.0	17.1	40.0	18.8
敷地内別棟の車庫に駐車	30.8	33.3	40.0	16.7	14.3	13.3	20.0
敷地外の駐車場に駐車	15.4	0.0	0.0	33.3	34.3	13.3	22.5
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	6.7	2.5
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7	0.0	2.5
無効	15.4	0.0	0.0	33.3	2.9	0.0	6.3

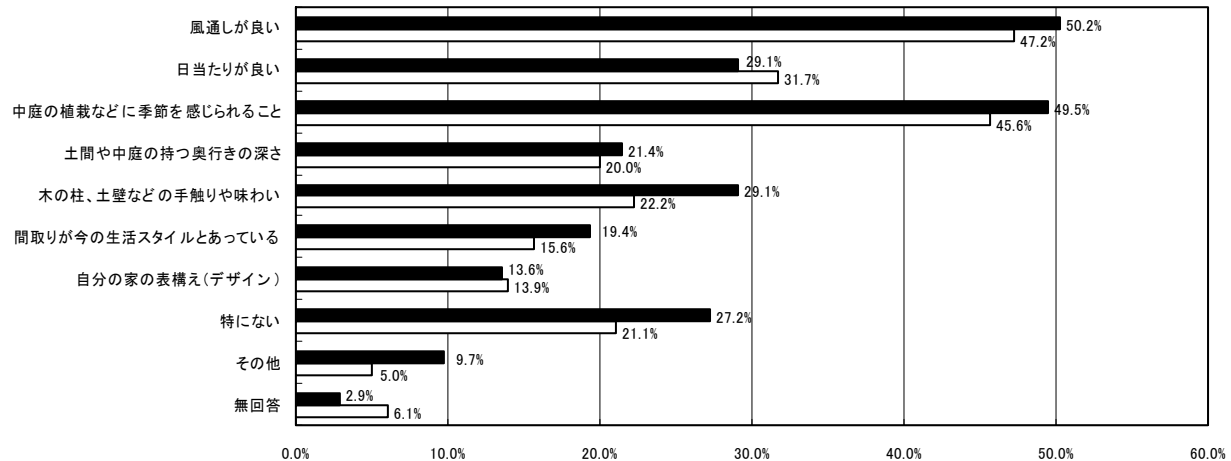
⑧家屋の住みよい点

家屋の住みよい点は「風通しが良い」との回答が50.5%と最も多く、次に「中庭の植栽などに季節を感じられること」「木の手触りや味わい」となっている。

町別では、西新町、南新町、東新町では「風通しが良い」「日当たりが良い」との回答が多く、広い敷地に独立した家屋という武家町の特徴を表している。一方、下河原町、上河原町では「風通しが良い」「中庭の植栽などに季節を感じられること」との回答が多く、商家町の特徴を表している。なお、小川町では「特にない」との回答が多い。

平成15年度調査と比較すると、全体的な割合ではあまり変化がみられないが、小川町において「特にない」の割合が高くなった。

単位：％
上段：H19調査 下段：H15調査
複数回答



	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
風通しが良い	70.6	66.7	50.0	27.3	51.2	40.0	50.2
日当たりが良い	70.6	57.1	75.0	41.2	48.1	30.6	47.2
中庭の植栽などに季節を感じられること	64.7	66.7	33.3	36.4	14.0	15.0	29.1
土間や中庭の持つ奥行きの深さ	55.9	71.4	75.0	29.4	22.2	19.4	31.7
木の柱、土壁などの手触りや味わい	58.8	66.7	33.3	36.4	55.8	35.0	49.5
間取りが今の生活スタイルとあっている	47.1	57.1	50.0	58.8	53.7	32.3	45.6
自分の家の表構え(デザイン)	17.6	0.0	0.0	27.3	25.6	25.0	21.4
特にない	20.0	26.5	0.0	0.0	17.6	27.8	12.9
その他	35.3	33.2	16.7	36.4	25.6	30.0	29.1
無回答	26.5	28.6	25.0	17.6	27.8	14.5	22.2
	41.2	33.3	16.7	18.2	9.3	20.0	19.4
	17.6	28.6	25.0	17.6	13.0	14.5	15.6
	29.4	16.7	0.0	0.0	16.3	5.0	13.6
	17.6	42.9	25.0	5.9	13.0	9.7	13.9
	11.8	33.3	33.3	45.5	25.6	30.0	27.2
	14.7	14.3	0.0	23.5	24.1	22.6	21.1
	23.5	16.7	0.0	9.1	9.3	0.0	9.7
	5.9	14.3	0.0	0.0	5.6	4.8	5.0
	5.9	0.0	0.0	0.0	4.7	0.0	2.9
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	6.1

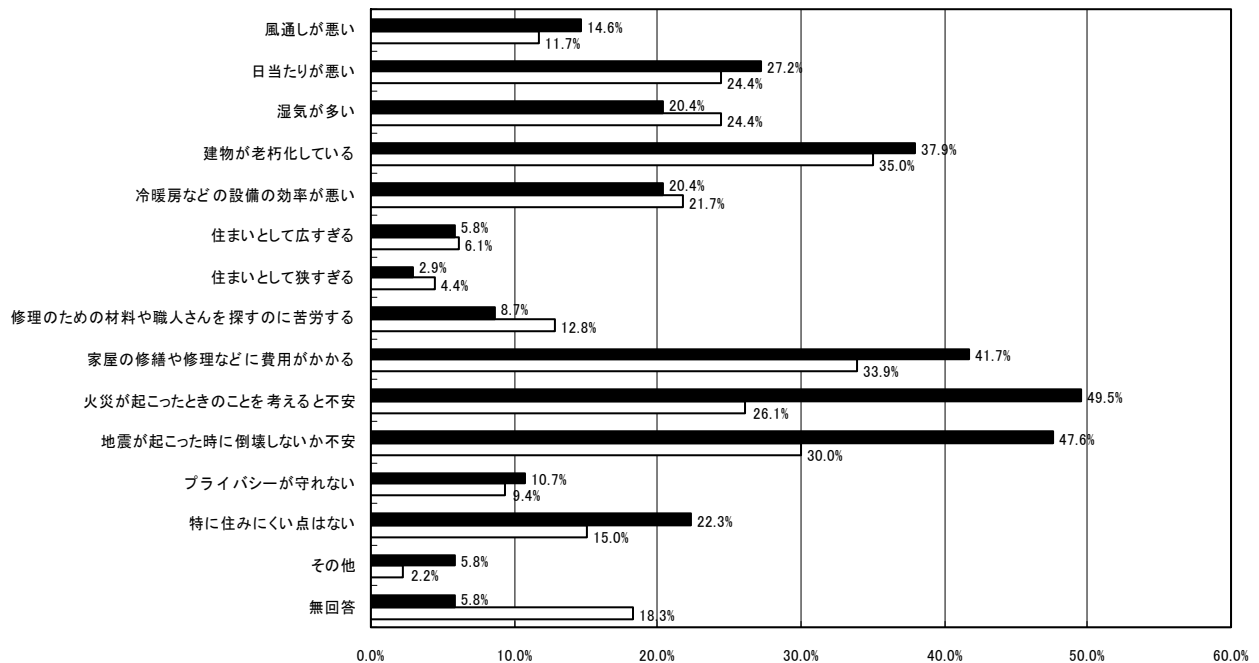
⑨家屋の住みにくい点

家屋の住みにくい点では「火災が起こったときのことを考えると不安」との回答が49.5%と最も多く、次に「建物が老朽化している」「地震が起こった時に倒壊しないか不安」となっている。

町別では、西新町では「家屋の修繕や修理などに費用がかかる」との回答が多く、南新町、東新町では「特に住みにくい点はない」が多くなっている。また、小川町では「地震が起こった時に倒壊しないか不安」が多い。なお、下河原町、上河原町では「火災が起こったときのことを考えると不安」との回答が6割を越え、家屋の密集した商家町での火災に対する不安がうかがえる。

平成15年度調査結果と比較すると、「火災が起こったときのことを考えると不安」「地震が起こった時に倒壊しないか不安」との回答が大きく増加しており、地区内住民の防災意識の高まりがうかがえる。特に下河原町、上河原町の増加が顕著である。

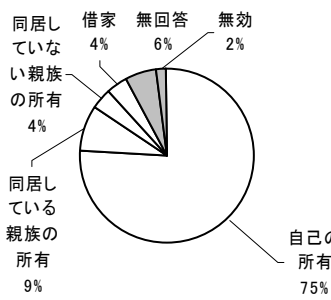
単位：％
上段：H19調査 下段：H15調査
複数回答



	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
風通しが悪い	5.9	16.7	0.0	9.1	20.9	15.0	14.6
日当たりが悪い	2.9	14.3	0.0	2.9	18.5	11.3	11.7
湿気が多い	11.8	0.0	0.0	11.8	33.3	24.2	24.4
建物が老朽化している	35.3	16.7	0.0	9.1	20.9	20.0	20.4
冷暖房などの設備の効率が悪い	23.5	14.3	0.0	23.5	25.9	25.8	24.4
住まいとして広すぎる	35.3	50.0	16.7	36.4	39.5	40.0	37.9
住まいとして狭すぎる	32.4	42.9	25.0	32.4	40.7	29.0	35.0
修理のための材料や職人さんを探すのに苦労する	11.8	16.7	0.0	27.3	25.6	20.0	20.4
家屋の修繕や修理などに費用がかかる	20.6	28.6	25.0	20.6	31.5	11.3	21.7
火災が起こったときのことを考えると不安	5.9	0.0	0.0	0.0	9.3	5.0	5.8
地震が起こった時に倒壊しないか不安	5.9	14.3	0.0	5.9	11.1	0.0	6.1
プライバシーが守れない	0.0	16.7	0.0	0.0	4.7	0.0	2.9
特に住みにくい点はない	2.9	14.3	0.0	2.9	5.6	4.8	4.4
その他	0.0	0.0	0.0	9.1	16.3	5.0	8.7
無回答	14.7	0.0	25.0	14.7	16.7	8.1	12.8
	58.8	16.7	16.7	36.4	39.5	50.0	41.7
	38.2	0.0	25.0	38.2	44.4	22.6	33.9
	35.3	16.7	0.0	45.5	60.5	65.0	49.5
	17.6	14.3	25.0	17.6	40.7	21.0	26.1
	35.3	50.0	33.3	63.6	53.5	40.0	47.6
	14.7	14.3	0.0	14.7	42.6	24.2	30.0
	11.8	0.0	0.0	9.1	11.6	15.0	10.7
	8.8	0.0	0.0	8.8	11.1	6.5	9.4
	23.5	66.7	50.0	27.3	16.3	10.0	22.3
	26.5	14.3	25.0	26.5	9.3	14.5	15.0
	11.8	0.0	16.7	0.0	4.7	5.0	5.8
	5.9	0.0	0.0	5.9	1.9	1.6	2.2
	5.9	16.7	16.7	0.0	7.0	0.0	5.8
	8.8	14.3	50.0	8.8	14.8	29.0	18.3

⑩建物の所有

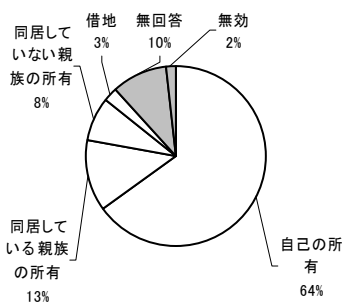
建物の所有は「自己の所有」との回答が75.7%と最も多い。



	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
自己の所有	88.2	66.7	100	81.8	72.1	65.0	75.7
同居している親族の所有	0.0	0.0	0.0	18.2	9.3	15.0	8.7
同居していない親族の所有	11.8	0.0	0.0	0.0	2.3	5.0	3.9
他人に借りている	0.0	16.7	0.0	0.0	4.7	5.0	3.9
無回答	0.0	16.7	0.0	0.0	9.3	5.0	5.8
無効	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	5.0	1.9

⑪土地の所有

土地の所有は「自己の所有」との回答が65.0%と最も多い。



	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
自己の所有	70.6	66.7	66.7	72.7	62.8	60.0	65.0
同居している親族の所有	5.9	0.0	0.0	9.1	16.3	20.0	12.6
同居していない親族の所有	17.6	0.0	33.3	0.0	4.7	5.0	7.8
他人に借りている	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	5.0	2.9
無回答	5.9	33.3	0.0	18.2	9.3	5.0	9.7
無効	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	5.0	1.9

単位：%

2) 地域について

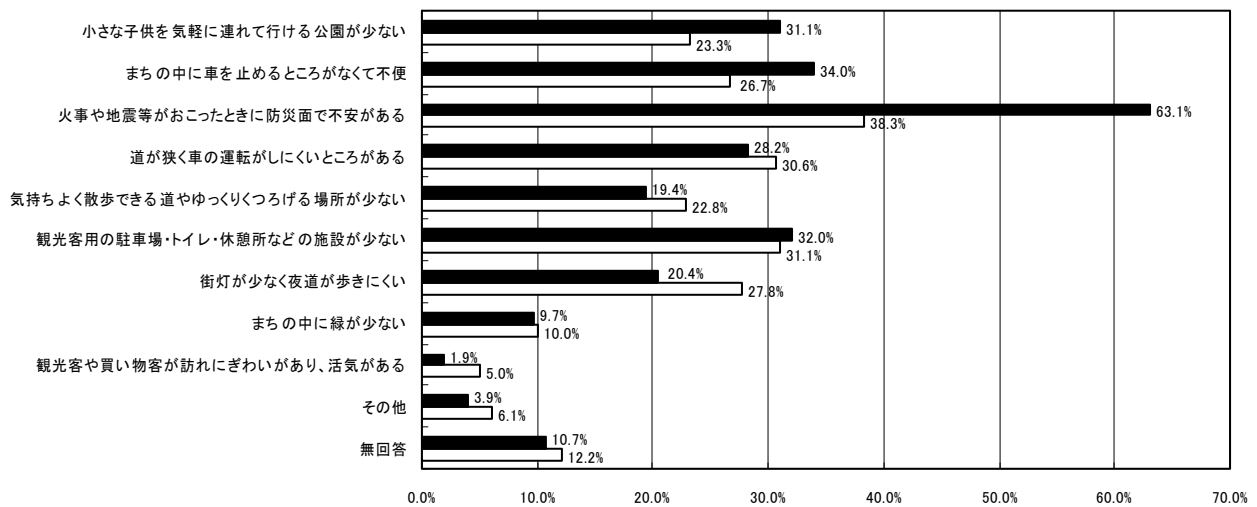
①地域環境

地域環境は「火事や地震等がおこったときに防災面で不安がある」との回答が63.1%と最も多い。

平成15年度調査結果と比較すると、この回答の割合が2倍近くまで増加しており、地区内住民の防災意識の高まりがうかがえる。特に下河原町、上河原町の増加が顕著である。

町別では西新町、東新町、上河原町で「小さな子供を気軽に連れて行ける公園が少ない」が多くなっており、小川町、下河原町、上河原町で「火事や地震等がおこったときに防災面で不安がある」が非常に多くなっている。また南新町では「観光客用の駐車場・トイレ・休憩所などの施設が少ない」や「街灯が少なく夜道が歩きにくい」が多い。

単位：％
上段：H19調査 下段：H15調査
複数回答

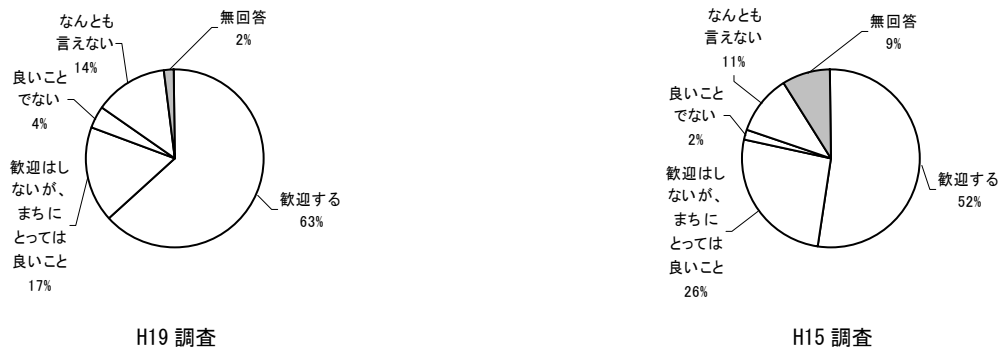


	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
小さな子供を気軽に連れて行ける公園が少ない	58.8	16.7	50.0	36.4	11.6	45.0	31.1
まちの中に車を止めるところがなく不便	29.4	28.6	25.0	23.5	14.8	25.8	23.3
火事や地震等がおこったときに防災面で不安がある	14.7	57.1	25.0	11.8	40.7	21.0	26.7
道が狭く車の運転がしにくいところがある	41.2	16.7	33.3	54.5	74.4	85.0	63.1
気持ちよく散歩できる道やゆっくりくつろげる場所が少ない	23.5	0.0	0.0	41.2	57.4	37.1	38.3
観光客用の駐車場・トイレ・休憩所などの施設が少ない	29.4	33.3	33.3	18.2	32.6	20.0	28.2
街灯が少なく夜道が歩きにくい	29.4	57.1	25.0	23.5	35.2	25.8	30.6
まちの中に緑が少ない	5.9	33.3	0.0	9.1	18.6	40.0	19.4
観光客や買い物客が訪れにぎわいがあり、活気がある	32.4	28.6	25.0	23.5	13.0	25.8	22.8
その他	29.4	50.0	16.7	0.0	39.5	35.0	32.0
無回答	29.4	57.1	75.0	23.5	35.2	25.8	31.1
その他	29.4	50.0	16.7	18.2	14.0	20.0	20.4
まちの中に緑が少ない	41.2	57.1	75.0	41.2	22.2	16.1	27.8
観光客や買い物客が訪れにぎわいがあり、活気がある	5.9	16.7	0.0	9.1	11.6	10.0	9.7
その他	11.8	14.3	0.0	5.9	7.4	12.9	10.0
無回答	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9
その他	8.8	14.3	50.0	0.0	0.0	4.8	5.0
無回答	5.9	0.0	16.7	0.0	2.3	5.0	3.9
その他	2.9	0.0	25.0	11.8	3.7	8.1	6.1
無回答	11.8	33.3	0.0	27.3	7.0	5.0	10.7
その他	11.8	0.0	0.0	11.8	3.7	22.6	12.2

②観光客

観光客について「歓迎する」との回答が63%と最も多い。また、「歓迎はしないが、まちにとっては良いこと」との回答も17%となっている。

平成15年度調査結果と比較すると、「歓迎する」との回答は10%程度増加している。

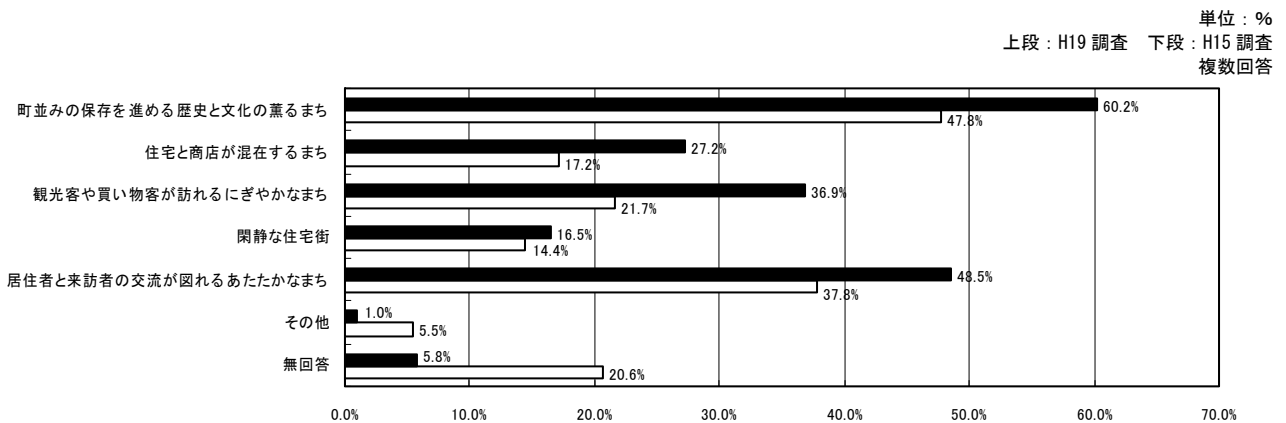


③まちの将来像

まちの将来像について「町並みの保存を進める歴史と文化の薫るまち」との回答は60.2%と最も多く、次に「居住者と来訪者の交流が図れるあたたかなまち」となっている。

平成15年度調査結果と比較すると、全体の順位は同じだが、「町並みの保存を進める歴史と文化の薫るまち」の割合が1.5倍程度増加しており、伝建地区指定による歴史的まちなみ整備への評価や期待が大きくなったことがうかがえる。

町別では、小川町、下河原町、上河原町で「住宅と商店が混在するまち」「観光客や買い物客が訪れるにぎやかなまち」との回答も多く、平成15年度調査結果からも大きく増加している。

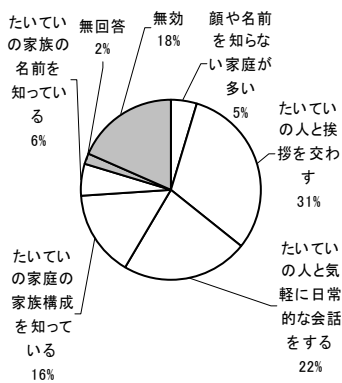


	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
町並みの保存を進める歴史と文化の薫るまち	64.7	50.0	66.7	27.3	67.4	60.0	60.2
住宅と商店が混在するまち	52.9	71.4	25.0	58.8	35.5	35.5	47.8
観光客や買い物客が訪れるにぎやかなまち	17.6	14.3	0.0	17.6	14.5	14.5	17.2
閑静な住宅街	23.5	0.0	33.3	36.4	41.9	50.0	36.9
居住者と来訪者の交流が図れるあたたかなまち	26.5	28.6	0.0	58.8	12.9	12.9	21.7
その他	52.9	50.0	16.7	0.0	7.0	5.0	16.5
無回答	35.3	42.9	25.0	11.8	4.8	4.8	14.4
	52.9	33.3	50.0	27.3	51.2	55.0	48.5
	50.0	14.3	50.0	41.2	32.3	32.3	37.8
その他	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	1.0
	5.9	0.0	0.0	0.0	6.4	6.4	5.5
無回答	0.0	16.7	0.0	27.3	2.3	5.0	5.8
	8.8	0.0	50.0	5.9	32.3	32.3	20.6

④近所つきあい

近所つきあいについて「たいていの人と挨拶を交わす」との回答が31.1%と最も多く、次に「たいていの人と気軽に日常的な会話をする」「たいていの家庭の家族構成を知っている」となっている。

なお、町別でも各町に大きな違いはなく、良好なコミュニティが維持されていることがうかがえる。

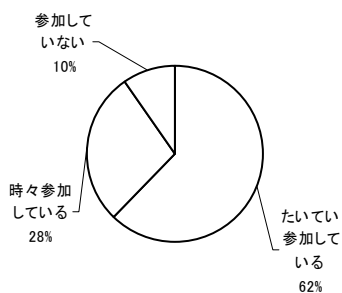


単位：%

	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
顔や名前を知らない家庭が多い	0.0	16.7	0.0	0.0	9.3	0.0	4.9
たいていの人と挨拶を交わす	41.2	0.0	33.3	36.4	25.6	40.0	31.1
たいていの人と気軽に日常的な会話をする	11.8	50.0	0.0	18.2	30.2	15.0	22.3
たいていの家庭の家族構成を知っている	11.8	16.7	33.3	9.1	16.3	15.0	15.5
たいていの家族の名前を知っている	11.8	0.0	16.7	9.1	2.3	5.0	5.8
無回答	0.0	0.0	0.0	9.1	2.3	0.0	1.9
無効	23.5	16.7	16.7	18.2	14.0	25.0	18.4

⑤行事への参加

行事への参加について「たいてい参加している」との回答が62.1%と最も多く、次に「時々参加している」となっている。なお、「行事に参加していない」と答えた方は1割程度で、区内住民の行事に対する関心は高く、前問と同様に、良好なコミュニティが維持されていることがうかがえる。



単位：%

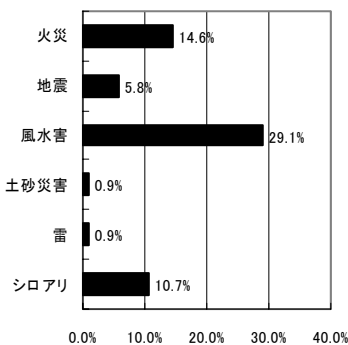
	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
たいてい参加している	41.2	83.3	50.0	63.6	67.4	65.0	62.1
時々参加している	52.9	0.0	16.7	36.4	20.9	30.0	28.2
参加していない	5.9	16.7	33.3	0.0	11.6	5.0	9.7

3) 災害履歴について

①災害履歴

これまで家屋に被害を受けた災害では、昭和20～30年代に発生した「風水害」に関する回答が29.1%と最も多く、次に「火災」「シロアリ」となっている。

町別でも西新町を除く5町で「風水害」が多く、特に下河原町、上河原町で割合が高い。



単位：%
複数回答

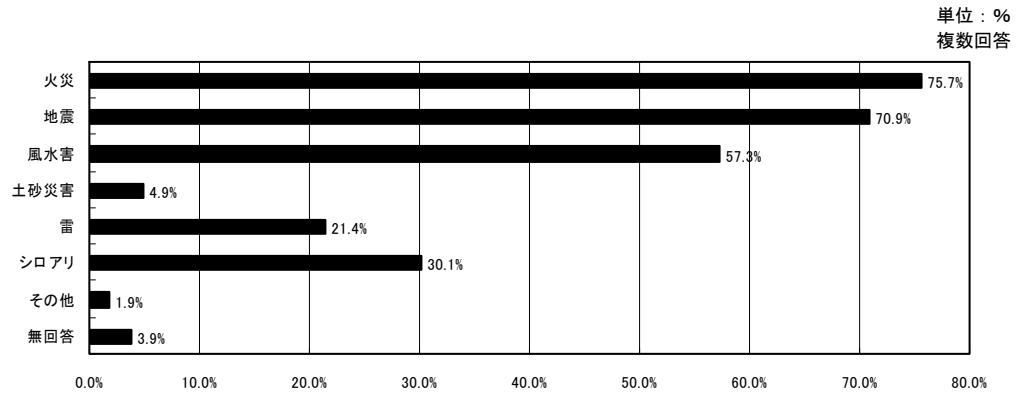
	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
火災	11.7	0.0	0.0	0.0	27.9	5.0	14.6
地震	0.0	0.0	0.0	0.0	11.6	5.0	5.8
風水害	0.0	16.7	16.7	27.3	41.9	35.0	29.1
土砂災害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.9
雷	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.9
シロアリ	17.6	0.0	0.0	9.1	14.0	10.0	10.7

4) 災害などの発生について

①不安に思っている災害

不安に思っている災害について「火災」との回答が75.7%と最も多く、次に「地震」「風水害」となっている。

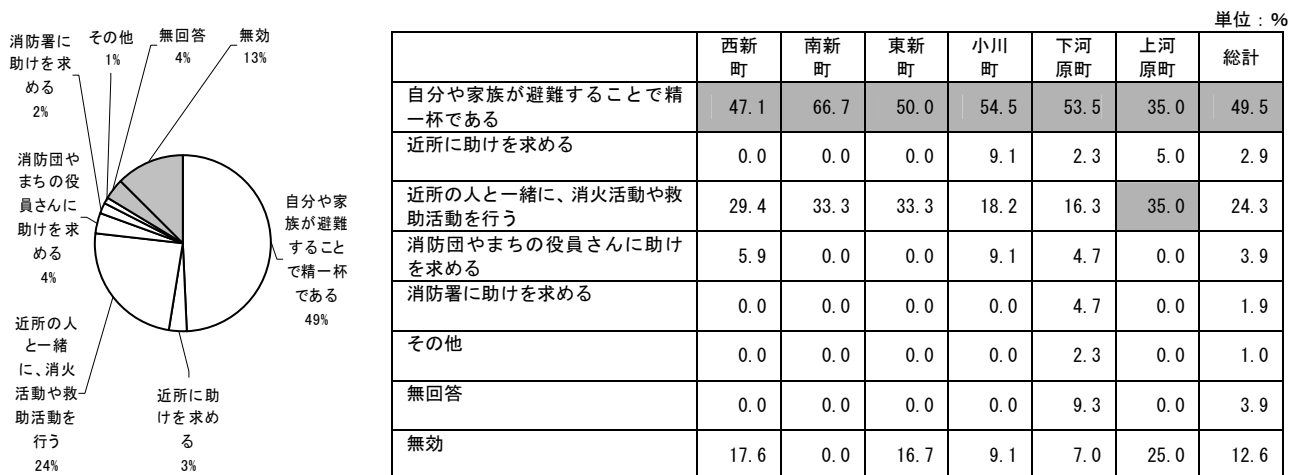
町別では、西新町で「シロアリ」に対する割合が高く、上河原町では急傾斜地崩壊危険区域に指定されている場所もあることから「土砂災害」に対する割合が高くなっている。



	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
火災	70.6	83.3	66.7	81.8	74.4	80.0	75.7
地震	70.6	83.3	100	81.8	65.1	65.0	70.9
風水害	41.2	66.7	50.0	45.5	58.1	75.0	57.3
土砂災害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	4.9
雷	23.5	16.7	16.7	27.3	18.6	25.0	21.4
シロアリ	47.1	0.0	16.7	18.2	30.2	35.0	30.1
その他	5.9	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	1.9
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	9.3	0.0	3.9

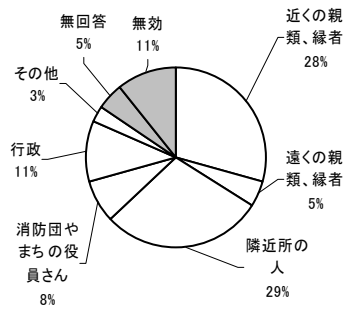
②災害時の対応

災害時の対応について「自分や家族が避難することで精一杯である」との回答が49.5%と最も多く、次に「近所の人と一緒に、消火活動や救助活動を行う」となっている。



③災害時に頼る人

災害時に頼る人について「近くの親類、縁者」「隣近所の人」との回答が 29.1%と多く、次に「行政」となっている。

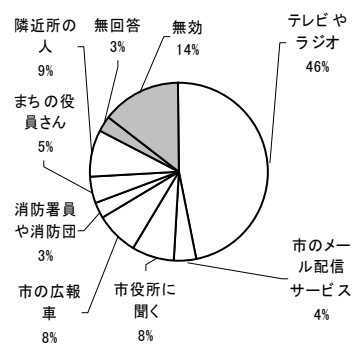


	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
近くの親類、縁者	23.5	16.7	16.7	45.5	27.9	35.0	29.1
遠くの親類、縁者	5.9	0.0	16.7	9.1	4.7	0.0	4.9
隣近所の人	23.5	16.7	66.7	18.2	32.6	25.0	29.1
消防団やまちの役員さん	5.9	0.0	0.0	9.1	9.3	10.0	7.8
行政	17.6	33.3	0.0	9.1	7.0	10.0	10.7
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	5.0	2.9
無回答	0.0	33.3	0.0	9.1	4.7	0.0	4.9
無効	23.5	0.0	0.0	0.0	9.3	15.0	10.7

④災害情報の入手

災害情報の入手について「テレビやラジオ」との回答が 46.6%と最も多い。

町別でも大きな違いはないが、西新町、南新町、東新町では「市役所に聞く」「市の広報車」「消防署員や消防団」の割合が高いことから、行政等に対する期待が大きいことがうかがえる。一方、小川町、下河原町、上河原町では「まちの役員さん」「隣近所の人」の割合が高く、コミュニティに対する期待が大きいことがうかがえる。



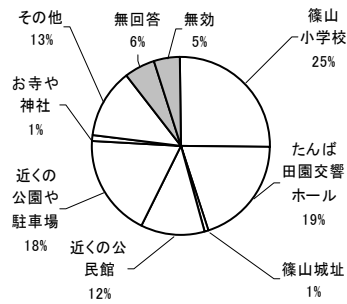
	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
テレビやラジオ	47.1	50.0	66.7	54.5	51.2	25.0	46.6
市のメール配信サービス	5.9	0.0	0.0	0.0	4.7	5.0	3.9
市役所に聞く	11.8	0.0	16.7	18.2	4.7	5.0	7.8
市の広報車	11.8	16.7	0.0	0.0	7.0	10.0	7.8
消防署員や消防団	0.0	0.0	16.7	0.0	2.3	5.0	2.9
まちの役員さん	5.9	0.0	0.0	9.1	2.3	10.0	4.9
隣の近所の人	5.9	0.0	0.0	9.1	11.6	10.0	8.7
無回答	0.0	16.7	0.0	0.0	2.3	5.0	2.9
無効	11.8	16.7	0.0	9.1	14.0	25.0	14.6

5) 避難について

①避難場所

避難場所について「篠山小学校」との回答が25.2%と最も多く、次に「たんば田園交響ホール」「近くの公園や駐車場」となっている。

町別では、西新町、南新町、東新町、小川町では「篠山小学校」や「たんば田園交響ホール」といった割合が高いが、下河原町や上河原町では「近くの公園や駐車場」の割合が高い。このことから避難所と各町との距離や避難経路が回答に影響していることがうかがえる。



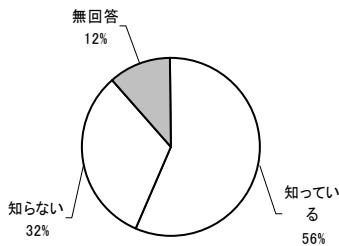
	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
篠山小学校	17.6	50.0	50.0	63.6	20.9	5.0	25.2
たんば田園交響ホール	64.7	0.0	33.3	9.1	11.6	5.0	19.4
篠山城址	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
近くの公民館	11.8	0.0	0.0	9.1	14.0	15.0	11.7
近くの公園や駐車場	0.0	0.0	16.7	18.2	23.3	30.0	18.4
お寺や神社	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	1.0
その他	5.9	0.0	0.0	0.0	16.3	25.0	12.6
無回答	0.0	33.3	0.0	0.0	9.3	0.0	5.8
無効	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	15.0	4.9

※設問のうち、篠山小学校、たんば田園交響ホールが篠山市の避難所となっている

②避難所等の認知

避難所等の認知について「知っている」との回答が56.3%と、半数を上回っている。

町別では、西新町では「知らない」の割合が多い。また、小川町や上河原町では「知っている」の割合が7割を越えている。

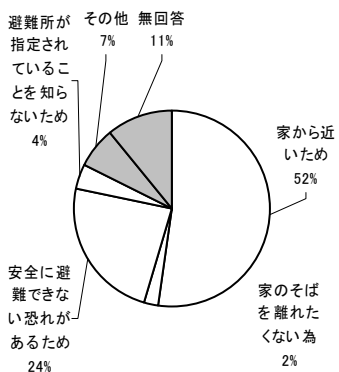


	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
知っている	35.3	50.0	50.0	72.7	55.8	70.0	56.3
知らない	64.7	33.3	33.3	27.3	30.2	10.0	32.0
無回答	0.0	16.7	16.7	0.0	14.0	20.0	11.7

③避難所等以外に避難する理由

避難所等以外に避難する理由について「家から近いため（指定された避難所は家からはなれているため）」との回答が52.2%と最も多く、次に「指定された避難場所へは、安全に避難できない恐れがあるため」となっている。いずれも、指定された避難所等への避難経路に不安を抱いていることがうかがえる。

町別では、西新町では「避難所が指定されていることを知らないため」の割合が多い。

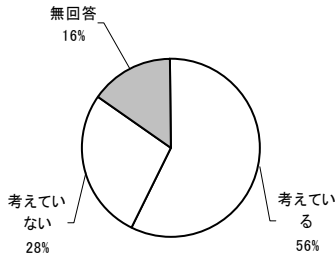


	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
家から近いため（指定された避難所は家から離れているため）	33.3	100	0.0	33.3	43.5	73.3	52.2
できるかぎり家や知り合いのそばを離れたくないため	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	2.2
指定された避難場所へは、安全に避難できない恐れがあるため	0.0	0.0	0.0	33.3	34.8	13.3	23.9
避難所が指定されていることを知らないため	33.3	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3
その他	0.0	0.0	100	0.0	4.3	6.7	6.5
無回答	33.3	0.0	0.0	33.3	8.7	6.7	10.9

④避難所等までの安全な避難経路

避難所等までの安全な避難経路は「考えている」との回答が 56.9%と半数を上回っている。

しかし町別では、上河原町で「考えていない」の割合が多くなっており、避難所と各町との距離が回答に影響していることがうかがえる。

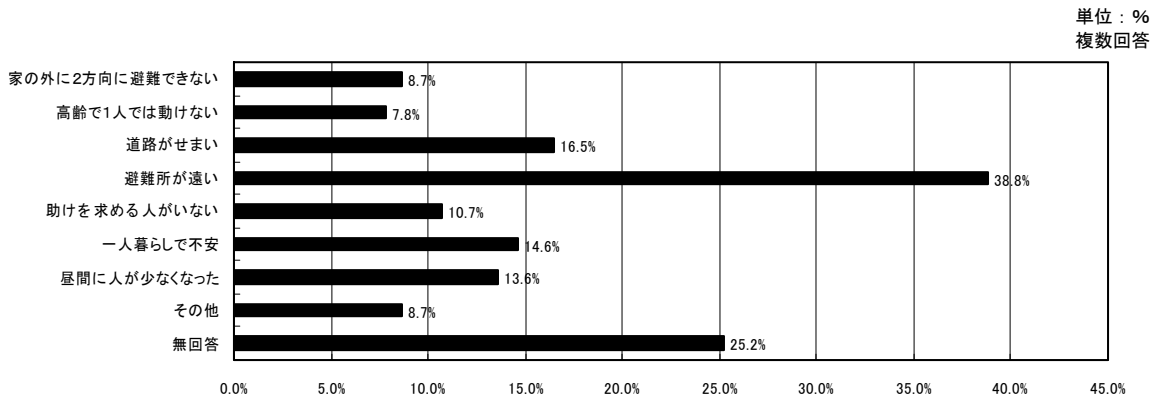


単位：%

	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
考えている	66.7	100	66.7	50.0	54.2	50.0	56.9
考えていない	0.0	0.0	33.3	25.0	29.2	42.9	27.6
無回答	33.3	0.0	0.0	25.0	16.7	7.1	15.5

⑤避難時の不安

避難時の不安については「避難所が遠い」が 38.8%と最も多く、次に「道路がせまい」「一人暮らしで不安」となっている。



	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
家の外に2方向に避難できない	23.5	0.0	0.0	0.0	11.6	0.0	8.7
高齢で1人では動けない	11.8	0.0	0.0	18.2	7.0	5.0	7.8
道路がせまい	11.8	0.0	0.0	18.2	18.6	25.0	16.5
避難所が遠い	35.3	0.0	16.7	27.3	48.8	45.0	38.8
助けを求める人がいない	11.8	0.0	16.7	18.2	11.6	5.0	10.7
一人暮らしで不安	17.6	16.7	16.7	18.2	11.6	15.0	14.6
昼間に人が少なくなった	17.6	0.0	0.0	27.3	16.3	5.0	13.6
その他	11.8	0.0	16.7	9.1	11.6	0.0	8.7
無回答	11.8	83.3	33.3	27.3	18.6	30.0	25.2

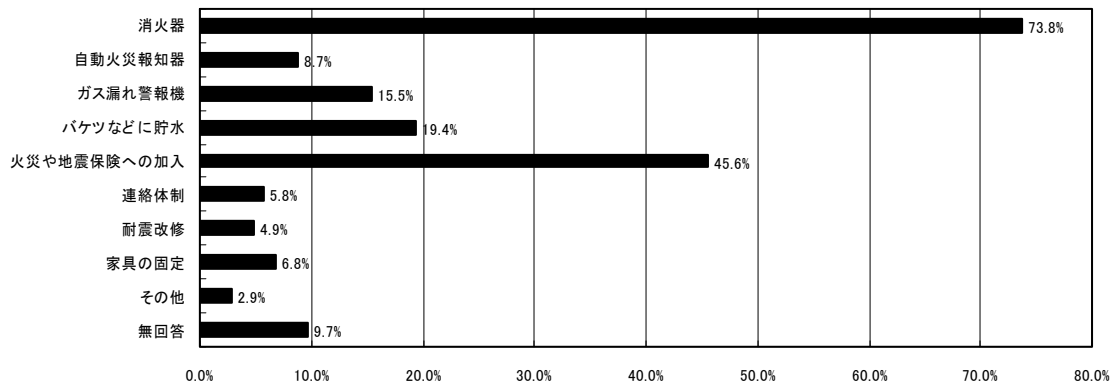
6) 災害などへの備え

①家庭で備えている防災設備

家庭で備えている防災設備について「消火器」との回答が73.8%と最も多く、次に「火災や地震保険への加入」となっている。

町別では「消火器」との回答は西新町、東新町、下河原町、上河原町で7割以上と多いが、南新町や小川町では3割程度にとどまる。また「火災や地震保険への加入」についても西新町、東新町、下河原町、上河原町で4~5割以上となっているが、南新町や小川町では3割前後にとどまっている。

単位：％
複数回答

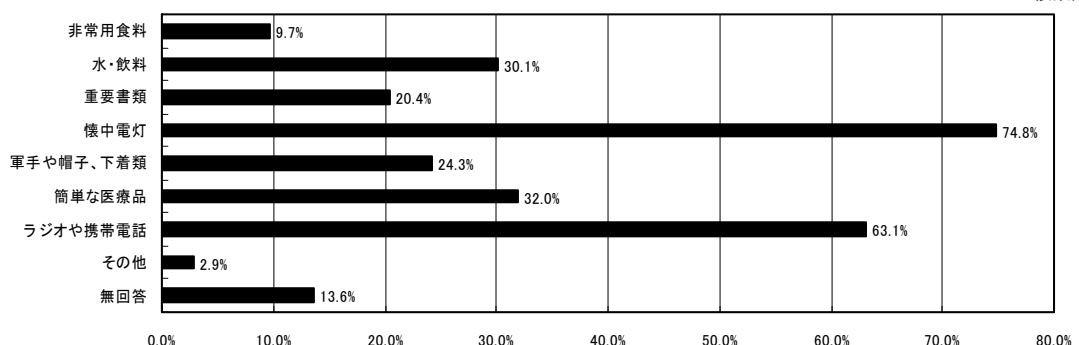


	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
消火器	70.6	33.3	100	36.4	81.4	85.0	73.8
自動火災報知器	0.0	16.7	16.7	0.0	14.0	5.0	8.7
ガス漏れ警報機	11.8	16.7	0.0	9.1	20.9	15.0	15.5
バケツなどに貯水	29.4	33.3	0.0	18.2	20.9	10.0	19.4
火災や地震保険への加入	41.2	33.3	50.0	27.3	51.2	50.0	45.6
連絡体制	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	15.0	5.8
耐震改修	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	10.0	4.9
家具の固定	0.0	0.0	16.7	0.0	7.0	15.0	6.8
その他	11.8	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	2.9
無回答	5.9	33.3	0.0	36.4	4.7	5.0	9.7

②家庭で備えている準備品

家庭で備えている準備品について「懐中電灯」が74.8%と最も多く、次に「ラジオや携帯電話」となっている。

単位：％
複数回答



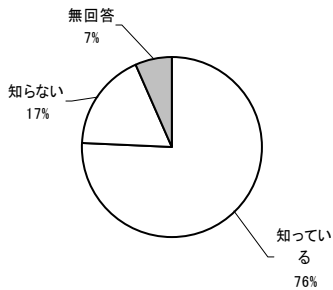
	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
非常用食料	11.8	0.0	16.7	0.0	9.3	15.0	9.7
水・飲料	52.9	50.0	16.7	18.2	25.6	25.0	30.1
重要書類	5.9	16.7	16.7	9.1	27.9	25.0	20.4
懐中電灯	94.1	83.3	83.3	54.5	69.8	75.0	74.8
軍手や帽子、下着類	29.4	0.0	33.3	27.3	20.9	30.0	24.3
簡単な医療品	35.3	33.3	16.7	27.3	32.6	35.0	32.0
ラジオや携帯電話	58.8	83.3	83.3	54.5	58.1	70.0	63.1
その他	11.8	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	2.9
無回答	5.9	16.7	0.0	18.2	14.0	20.0	13.6

7) 防災活動

①消防団の認知

消防団については「知っている」との答えが75.7%と高くなっている。

町別では東新町、下河原町、上河原町で「知っている」の割合が8~9割と非常に高くなっているが、南新町や小川町では5割程度となっている。



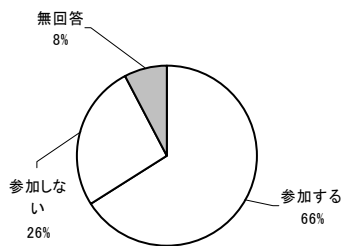
単位：%

	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
知っている	64.7	50.0	100	54.5	79.1	90.0	75.7
知らない	29.4	33.3	0.0	27.3	16.3	5.0	17.5
無回答	5.9	16.7	0.0	18.2	4.7	5.0	6.8

②防災訓練への参加

防災訓練への参加は「参加する」との答えが66.0%と高くなっている。

町別では、小川町において、「参加しない」が「参加する」を上回っている。

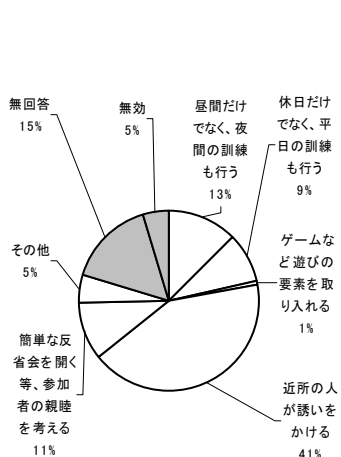


単位：%

	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
参加する	64.7	83.3	66.7	36.4	69.8	70.0	66.0
参加しない	29.4	16.7	33.3	45.5	25.6	15.0	26.2
無回答	5.9	0.0	0.0	18.2	4.7	15.0	7.8

③多くの人が参加する防災訓練

多くの人が参加する防災訓練として「近所の人が誘いをかける」が41.7%と最も多く、次に「昼間だけでなく、夜間の訓練も行う」となっている。



単位：%

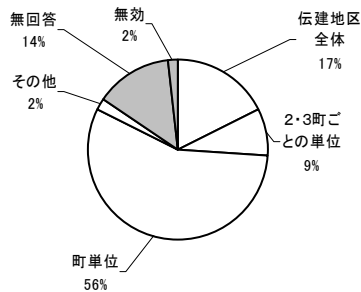
	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
昼間だけでなく、夜間の訓練も行う	5.9	0.0	16.7	9.1	14.0	20.0	12.6
休日だけでなく、平日の訓練も行う	0.0	0.0	0.0	0.0	9.3	25.0	8.7
ゲームなどの遊びの要素を取り入れる	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
近所の人が誘いをかける	47.1	50.0	50.0	54.5	34.9	40.0	41.7
簡単な反省会を開くなど、参加者の親睦を考える	11.8	16.7	16.7	0.0	16.3	0.0	10.7
その他	11.8	0.0	0.0	9.1	4.7	0.0	4.9
無回答	5.9	33.3	16.7	27.3	14.0	15.0	15.5
無効	11.8	0.0	0.0	0.0	7.0	0.0	4.9

④効果的な防災訓練

効果的な防災訓練として、訓練の単位は「町単位」が56.3%と最も高い。また、実施の頻度としては「年に1回」が42.7%と最も高い。なお、訓練の内容は「避難訓練（避難場所及び経路の確認）」が55.3%と最も多く、次に「消火器を用いた消火活動」となっている。

町別では、小川町、下河原町、上河原町では「バケツリレーによる消火活動」「消火器を用いた消火活動」の割合が高く、火災に対する防災訓練への関心がうかがえる。

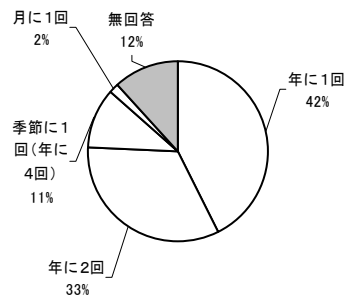
訓練の単位



	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
伝建地区全体	17.6	0.0	16.7	0.0	20.9	25.0	17.5
2・3町ごとの単位	5.9	0.0	16.7	9.1	11.6	5.0	8.7
町単位	70.6	66.7	33.3	45.5	53.5	60.0	56.3
その他	0.0	0.0	0.0	9.1	2.3	0.0	1.9
無回答	5.9	33.3	33.3	27.3	9.3	10.0	13.6
無効	0.0	0.0	0.0	9.1	2.3	0.0	1.9

単位：%

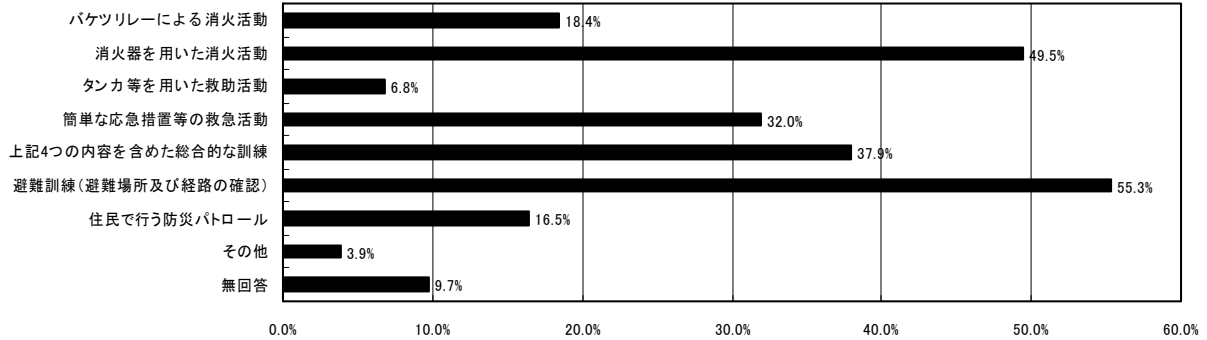
実施の頻度



	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
年に1回	58.8	66.7	16.7	54.5	41.9	25.0	42.7
年に2回	29.4	16.7	50.0	9.1	34.9	45.0	33.0
季節に1回(年に4回)	5.9	0.0	0.0	18.2	14.0	10.0	10.7
月に1回	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	1.9
無回答	5.9	16.7	33.3	18.2	9.3	10.0	11.7

単位：%

訓練の内容



単位：%
複数回答

	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
バケツリレーによる消火活動	5.9	0.0	0.0	27.3	23.3	25.0	18.4
消火器を用いた消火活動	35.3	0.0	33.3	45.5	58.1	65.0	49.5
タンカ等を用いた救助活動	11.8	0.0	0.0	9.1	4.7	10.0	6.8
簡単な応急措置等の救急活動	17.6	16.7	16.7	36.4	37.2	40.0	32.0
上記4つの内容を含めた総合的な訓練	64.7	66.7	50.0	45.5	27.9	20.0	37.9
避難訓練(避難場所及び経路の確認)	58.8	50.0	33.3	45.5	55.8	65.0	55.3
住民で行う防災パトロール	17.6	16.7	0.0	27.3	16.3	15.0	16.5
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	5.0	3.9
無回答	5.9	16.7	33.3	9.1	7.0	1.0	9.7

8) 地域防災設備

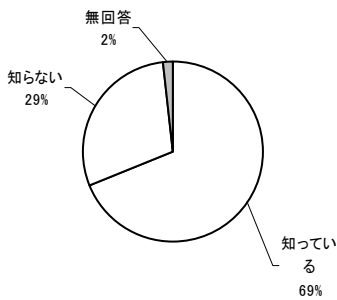
①地域防災設備の認知

地域防災設備の認知について「知っている」が68.9%と高くなっている。また、認知されている地域防災設備の種類では「消火栓」が60.2%と最も高い。

町別では、西新町や南新町で「知らない」の割合が高く、地域防災設備の設置密度と関連していることがうかがえる。また、上河原町において「消火器」の割合が高く、自治会による自主的な消火器設置の効果もうかがえる。

地域防災設備の認知

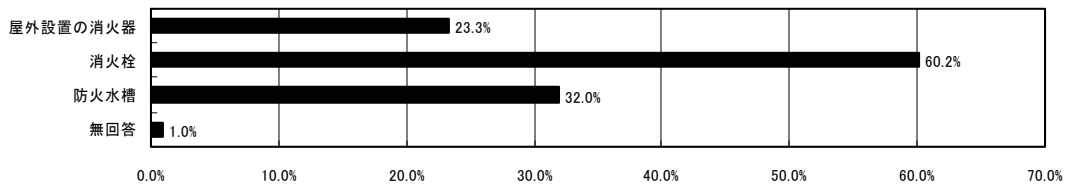
単位：%



	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
知っている	35.3	50.0	100	81.8	65.1	95.0	68.9
知らない	64.7	50.0	0.0	18.2	30.2	5.0	29.1
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	0.0	1.9

認知されている地域防災設備の種類

単位：%
複数回答



	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
屋外設置の消火器	5.9	0.0	33.3	9.1	16.3	65.0	23.3
消火栓	29.4	50.0	83.3	81.8	58.1	75.0	60.2
防火水槽	0.0	0.0	16.7	18.2	46.5	50.0	32.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	1.0

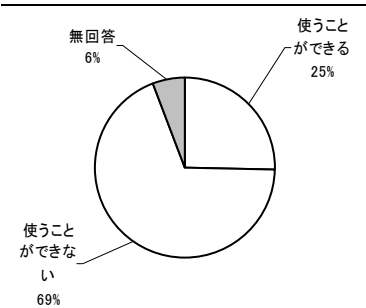
②地域防災設備の使用

地域防災設備の使用について「使うことができる」との回答は25.2%に留まっている。その中で、使うことができる設備の種類について「消火栓」が20.4%、「屋外設置の消火器」が14.6%、「防火水槽」が10.7%となっており、これら設備の使用訓練が課題として考えられる。

町別では、上河原町で「使うことができる」の割合は5割に達し、種類として「屋外設置の消火器」が40%、「消火栓」が30%となっている。

地域防災設備の使用

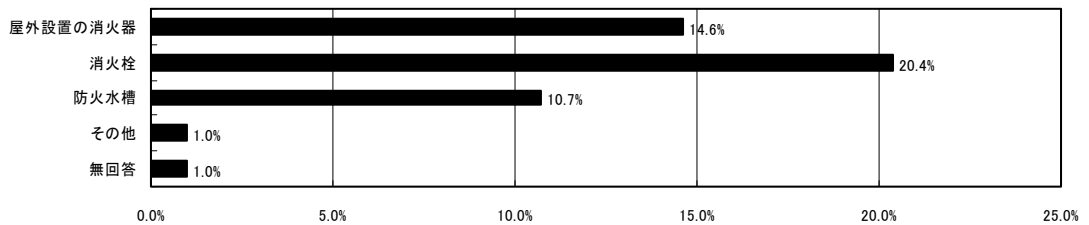
単位：%



	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
使うことができる	5.9	16.7	33.3	27.3	20.9	50.0	25.2
使うことができない	82.4	83.3	50.0	72.7	72.1	50.0	68.9
無回答	11.8	0.0	16.7	0.0	7.0	0.0	5.8

使うことができる地域防災設備の種類

単位：%
複数回答



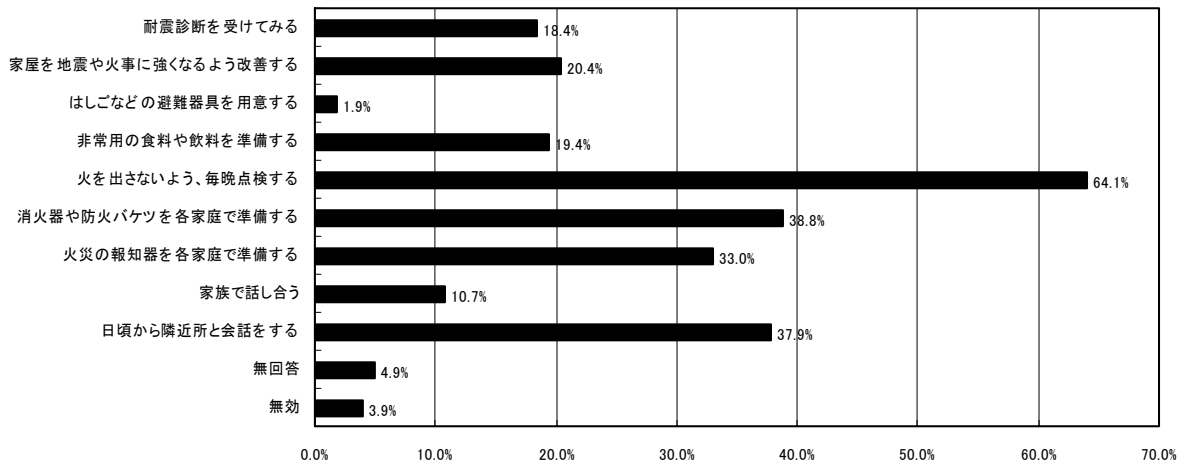
	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
屋外設置の消火器	0.0	0.0	33.3	0.0	11.6	40.0	14.6
消火栓	5.9	16.7	33.3	27.3	18.6	30.0	20.4
防火水槽	0.0	0.0	33.3	0.0	9.3	25.0	10.7
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	1.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	1.0

9) 災害に強いまちづくりに向けた取り組み

①各家庭でできる取り組み

災害に強いまちづくりに向けた取り組みについて、各家庭でできる取り組みとして「火を出さないよう、毎晩点検する」が64.1%と最も高く、次に「消火器や防火バケツを各家庭で準備する」「日頃から隣近所と会話をする」となっている。

単位：％
複数回答



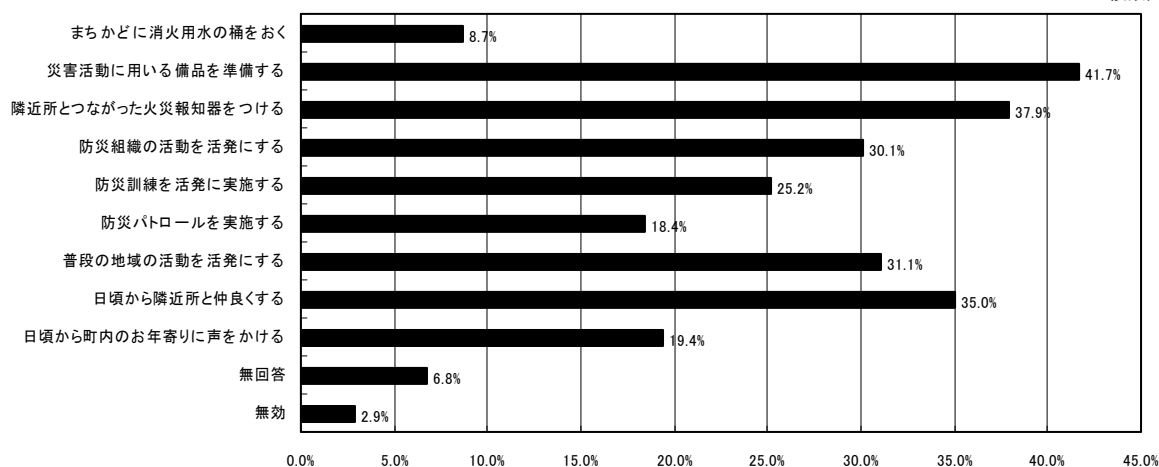
	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
耐震診断を受けてみる	29.4	0.0	16.7	9.1	16.3	25.0	18.4
家屋を地震や火事に強くなるよう改善する	35.3	16.7	16.7	9.1	18.6	20.0	20.4
はしごなどの避難器具を用意する	0.0	0.0	16.7	0.0	2.3	0.0	1.9
非常用の食料や飲料を準備する	35.3	16.7	33.3	36.4	14.0	5.0	19.4
火を出さないよう、毎晩点検する	52.9	50.0	50.0	54.5	69.8	75.0	64.1
消火器や防火バケツを各家庭で準備する	35.3	50.0	50.0	54.5	32.6	40.0	38.8
火災の報知器を各家庭で準備する	29.4	0.0	50.0	36.4	25.6	55.0	33.0
家族で話し合う	0.0	16.7	0.0	18.2	14.0	10.0	10.7
日頃から隣近所と会話をする	29.4	33.3	33.3	27.3	46.5	35.0	37.9
無回答	5.9	16.7	0.0	0.0	7.0	0.0	4.9
無効	5.9	0.0	0.0	0.0	4.7	5.0	3.9

②町内でできる取り組み

災害に強いまちづくりに向けた取り組みについて、町内でできる取り組みとして「災害活動に用いる備品を準備する」が41.7%と最も多く、次に「隣近所とつながった火災報知器をつける」「日頃から隣近所と仲良くする」となっている。

町別では、西新町、南新町、小川町で「日頃から隣近所と仲良くする」や「普段の地域の活動を活発にする」の割合が高く、高齢化対策やコミュニティ強化が求められていることがうかがえる。また、下河原町や上河原町では「災害活動に用いる備品を準備する」や「隣近所とつながった火災報知器をつける」「防災組織の活動を活発にする」の割合が高く、防災設備の充実や、防災組織の活動が求められていることがうかがえる。

単位：％
複数回答

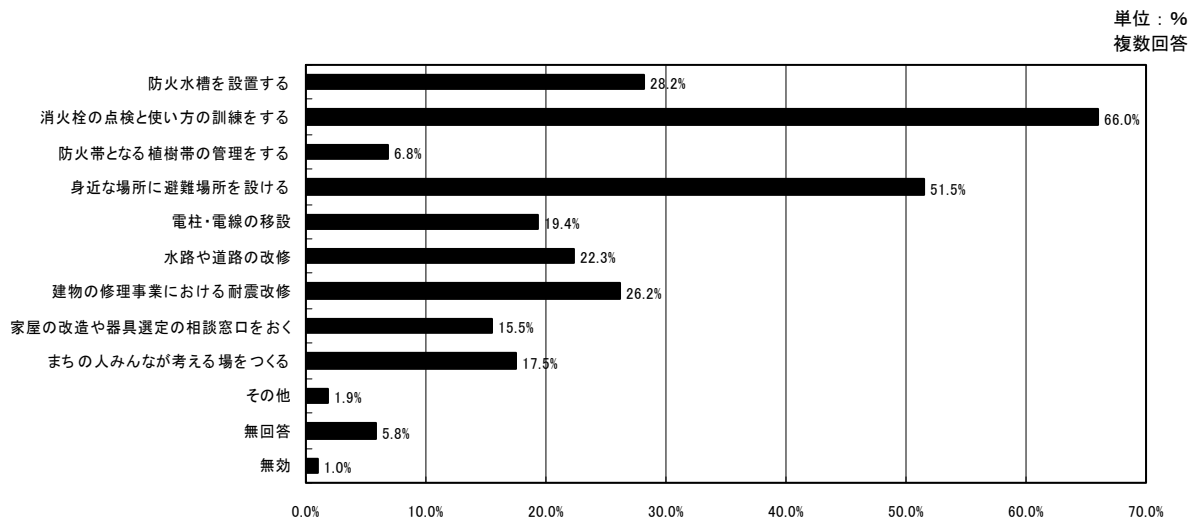


	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
まちかどに消火用水の桶をおく	17.6	0.0	0.0	0.0	7.0	15.0	8.7
災害活動に用いる備品を準備する	41.2	16.7	50.0	45.5	46.5	35.0	41.7
隣近所とつながった火災報知器をつける	35.3	0.0	50.0	36.4	34.9	55.0	37.9
防災組織の活動を活発にする	23.5	16.7	33.3	9.1	27.9	55.0	30.1
防災訓練を活発に実施する	11.8	16.7	50.0	9.1	25.6	40.0	25.2
防災パトロールを実施する	5.9	0.0	16.7	9.1	25.6	25.0	18.4
普段の地域の活動を活発にする	41.2	66.7	33.3	18.2	27.9	25.0	31.1
日頃から隣近所と仲良くする	47.1	66.7	16.7	63.6	30.2	15.0	35.0
日頃から町内のお年寄りに声をかける	23.5	33.3	16.7	36.4	20.9	0.0	19.4
無回答	5.9	16.7	0.0	0.0	9.3	5.0	6.8
無効	5.9	0.0	0.0	0.0	4.7	0.0	2.9

③行政と協力することでできる取り組み

災害に強いまちづくりに向けた取り組みについて、行政と協力することでできる取り組みとして「消火栓の点検と使い方の訓練をする」との回答が66.0%と最も多く、次に「身近な場所に避難場所を設ける」「防火水槽を設置する」となっている。

町別では、「消火栓の点検と使い方の訓練をする」の回答が西新町では8割を越え、上河原町では9割を越している。また、西新町で「建物の修理事業における耐震改修」、南新町や東新町で「水路や道路の改修」との回答も多く見られる。



	西新町	南新町	東新町	小川町	下河原町	上河原町	総計
防火水槽を設置する	17.6	16.7	0.0	18.2	30.2	50.0	28.2
消火栓の点検と使い方の訓練をする	82.4	33.3	50.0	36.4	62.8	90.0	66.0
防火帯となる植樹帯の管理をする	5.9	0.0	0.0	0.0	9.3	10.0	6.8
身近な場所に避難場所を設ける	58.8	16.7	50.0	45.5	55.8	50.0	51.5
電柱・電線の移設	5.9	33.3	50.0	27.3	14.0	25.0	19.4
水路や道路の改修	11.8	33.3	66.7	27.3	20.9	15.0	22.3
建物の修理事業における耐震改修	47.1	16.7	16.7	18.2	30.2	10.0	26.2
家屋の改造や器具選定の相談窓口をおく	17.6	0.0	16.7	18.2	16.3	15.0	15.5
まちの人みんなが考える場をつくる	17.6	16.7	0.0	9.1	18.6	25.0	17.5
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	5.0	1.9
無回答	5.9	16.7	0.0	9.1	7.0	0.0	5.8
無効	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	1.0

10) 自由意見

①自由意見

自由意見の中では、「防災設備の充実（消火栓・防火水槽・火災報知器の整備等）」、「電柱・電線類の撤去」、「水害・堤防決壊の不安」に関する記述が多い。

項目	意見数
防災設備の充実（消火栓・防火水槽・火災報知器の整備等）	8
電柱・電線類の撤去	5
水害・堤防決壊の不安	4
街灯の整備	3
防災訓練の実施	2
避難場所の検討	2
道路整備	2
一人暮らしの不安	2
空き家の管理	1

6.2 ワークショップの概要と結果

6.2.1 ワークショップの概要

1) ワークショップの目的

近年、日本の各地で大規模な災害が続いている。行政による災害対策が進む一方で、やはり災害時に大きな防災力となるのは、地域住民の方々の日頃からの準備・連携であることがより一層明白となってきた。

このような状況を受け、行政や専門家の意見だけではなく地域住民の方々からの意見や提案をいただき、それを防災計画に反映させていくことをワークショップの目的とする。住民の方しかわからない危険や、実際の設備使用という視点での情報を得ることも目的の一つである。

また、通常災害はもちろん、大規模災害時においても有効な防災計画とするために、現状の地域防災力を把握し、今後高めていくことが重要になる。本ワークショップを通じて、地域住民の方々地域の実状を知り、少しでも地域防災力の向上に繋がる機会となることも大きな目的である。

2) ワークショップの実施手順

ワークショップの開催にあたっては、立命館大学 COE 推進機構教授大窪健之先生のご指導のもと、立命館大学歴史都市防災研究センター、京都大大学大学院地球環境学堂、篠山まちなみ保存会の支援を受け実施した。

ワークショップの参加者は、地区住民の方々として、西新町 3 名、南新町 2 名、東新町 1 名、小川町 2 名、下河原町 3 名、上河原町 5 名の方々に参加いただき、行政関係者として、教育委員会 2 名、建設課 1 名、防災課 1 名、商工観光課 1 名が、また篠山市町並みアドバイザーに委嘱している建築士 1 名の合計 23 名が参加した。グループのファシリテーター及びオブザーバーとして、立命館大学歴史都市防災研究センター、京都大大学大学院地球環境学堂人間環境設計論分野、(株)地域計画建築研究所大阪事務所が参加した。

実施にあたっては 4 班にわかれ、1 班を旧武家町のグループ（西新町・南新町・東新町）、他の 3 班を旧商家町のグループ（小川町・下河原町・上河原町）として実施した。

また、参加者には事前アンケート調査を実施し、(1)災害に関する不安、(2)避難行動、(3)地域の状況、(4)防災対策に関して参加者の考えを伺った。

3) ワークショップの内容

日時：平成 19 年 12 月 9 日（日）13:30～17:00

場所：上河原町集会所

内容：①防災に関する事前アンケート調査の結果発表

日常での意識や災害時の行動に関する事前アンケート調査の結果発表を行い、DIG（災害図上訓練）へと発展させる。

②災害時の避難・消火に関する DIG（災害図上訓練）

実際の災害を想定した DIG を通じ、篠山地区での防災上の課題点・対策について考えることを目的とする。

DIG（災害図上訓練）とは、地図を用いて地域で大きな災害が発生する事態を想定し、地図と地図の上にかける透明シート、ペンを用いて、危険が予測される地帯または事態をシートの上に書き込んでいく疑似訓練のことである。これが、ハザードマップの役割を果たし、事前に危険を予測できると同時に、避難経路、避難場所、地域住民や関係機関における対策や連携方法の検討など、参加者の間での共有が期待される。

③整備アイデア事例紹介と検討

他地区の先進的な事例を紹介し、篠山地区での防災対策について考えることを目的とし、可能な限り地域住民の方々の意見を反映させることも目的とする。

防災ワークショップ プログラム

1. 趣旨と DIG についての説明
2. 事前アンケートの結果
3. DIG 準備作業
4. 平常時の描き込み
平常時の様子を地図上に描き込む。
自宅・大切な場所：黄色シール
社寺：建物をオレンジ色、境界はオレンジ線
災害時に安全と思われる場所：建物に緑色シール、場所は緑色斜線
防災設備：知っている消火器に赤色シール
地域の水源（防火水槽・井戸・池・水路など）：青色シールまたは青色斜線
自力避難が困難な方：ピンク色のシール＋人数
5. 通常火災時の課題と対策
6. 地震の発生
 - 6.1 道路の閉塞状況
道路閉塞の可能性があると思われる場所に赤の×印を付ける。
閉塞した道路は、消防車やポンプ車の通行が不能になる。
また、消火活動や避難活動も困難になることが予想される。
幅 4m 以下の道路：路線内に必ずふさがれる場所が発生
幅 4m～8m の道路：50%程度以上の確率で路線内にふさがれる場所が発生
幅 8m 以上の道路：路線内がふさがれる可能性は低い。
 - 6.2 断水
地域全体が 100%の断水被害を受けると想定
上水の断水により使えなくなる可能性のある、消火栓や水道施設などに青色で×印を付ける。
 - 6.3 停電
地域全体が 100%の停電被害を受けると想定
停電で使えなくなる可能性のある、電動ポンプ井戸などに青色で×印を付ける。
 - 6.4 危険箇所
その他、危険と思われる場所に赤色で×印を付け、理由を書き出す。
7. 消火活動
火災が発生したことを想定し、消火活動を図上で体験する。
ビニールシートを 1 枚貼り、出火地点に赤のシールを付け、周囲の水源を使って消火できるか、地図上で検討
(①水源の選定→②取水方法→③ルートを選定)
水源・水の利用方法・ルートに関する問題点・対策案を話し合う。
8. 近隣への避難活動
各家庭から近隣への避難や近所の動けない人の安否確認や救助活動を体験する。
地震により、かろうじて倒壊しなかったが自宅で生活はできない。
延焼火災が発生し、延焼範囲から避難する。
地域全体で断水・停電が発生している。
 - 8.1 近隣への避難活動
60 分間でも消火出来ない場合の延焼範囲として、半径 150m（地図上で 15cm）の赤い円を描く。
緑のシールが貼られた場所から避難場所を選び、避難場所までの経路を選定する。（各家庭から緑線で結ぶ）
経路などの問題点・対策を話し合う。
 - 8.2 近隣どうして安否確認
赤い円の中の自力避難が困難な人を確認。（ピンクのシールと人数を確認）
安否、救助にいける住民、経路などを確認。（家庭や避難所からピンク線で結ぶ）
普段どういう範囲でグループを作っておくと有効か検討する。（グループをピンク線で囲み、斜線を引く）
経路や人手、普段からの対策について、問題点・対策を話し合う。
9. 土砂災害・水害等について
地震以外の災害についての検討。急傾斜地や冠水の可能性、その他の危険について確認を行う。
ビニールシートを 1 枚貼る。
不安事項について、エリアを表示して災害の種類を書き出す。（赤色斜線）
住民の力でできること、行政との協力が必要なことについて、問題点・対策を話し合う。
10. 発表とまとめ
11. 整備のアイデア（他地域の取組み事例の紹介）
12. その他のアイデアと課題
様々な課題に対する解決策について、問題点・対策を話し合う。



検討の様子



検討結果の発表（1班）



検討結果の発表（2班）



検討結果の発表（3班）



検討結果の発表（4班）



他地域の取組み事例の紹介

6.2.2 ワークショップの結果

1) 事前アンケート調査結果

①調査概要

アンケートの主な項目

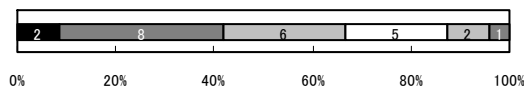
内容	質問項目
基本情報	建物構造、世帯人数、年齢構成
不安な災害	不安な災害の種類、災害時の状況
地域の不安	地域の不安、避難・消火活動に関する不安
地域の危険箇所	篠山市ハザードマップの認知、土砂・風水害に関する地域の危険箇所
自力避難が困難な人への対応	自力避難が困難な家族の有無、家族内での避難を手助けできる人手 近所の自力避難が困難な人の認知
日常組織	防災の話し合いができそうな組織、防災活動のために必要な行政協力
今後の防災対策	家庭での対策、学区や町内での対策、行政と協力する対策
地域防災に関する自由記載	

アンケートの実施概要

調査対象地区	篠山市篠山伝統的建造物群保存地区
調査対象	住民ワークショップ参加者（各町会役員と住民2～4名）
配布票数	24部
調査方法	地区内の各町会役員の協力による配布・回収
調査期間	2007年11月14日～11月26日
回収票数	24部（回収率 100%）

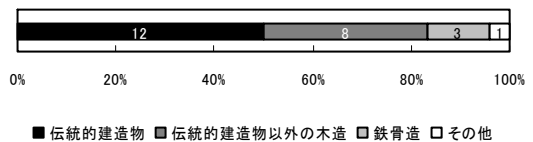
②基本情報

世帯人数は1人が8%、2人が33%と4割以上を占めている。年齢構成は65歳以上が40%と非常に多く、19～64歳で、昼間地域において災害時に活動可能な人は24%となっており、これらの人が災害時の活動人員になると思われる。建物構造については、半数が伝統的な木造家屋に住んでおり、木造が8割以上を占めている。

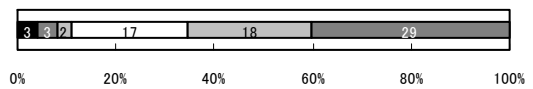


■ 1人 ■ 2人 □ 3人 □ 4人 ■ 5人 ■ 6人

世帯人数（単位：世帯）



建物構造（単位：世帯）



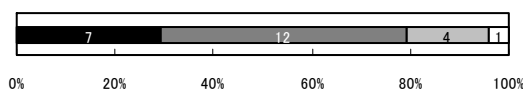
■ 0-6歳 ■ 7-12歳 □ 12-18歳
□ 19-64歳(活動可) □ 19-64歳(活動不可) ■ 65歳以上

年齢構成（単位：人）

③不安な災害

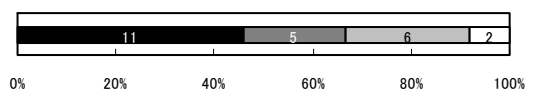
不安に思う災害として、火災に対する不安が50%と最も多く挙げられ、続いて地震が29%となっている。災害に対する不安としては、対策以前にそもそも「災害時に起こる状況が不明」だという答えが46%で、「災害時にとるべき行動が不明」が21%であった。

このことから、まず災害時の状況をよく理解することが必要である。



■ 地震 ■ 火災 □ 風水害 □ 特になし

不安な災害の種類（単位：世帯）



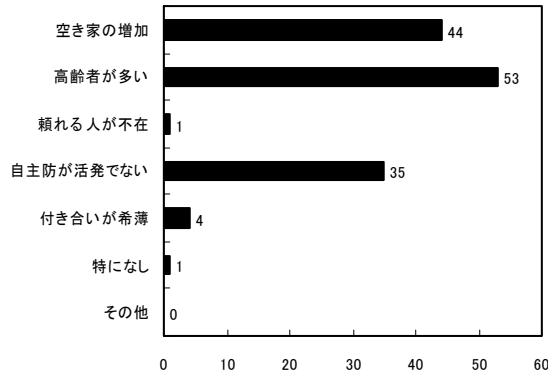
■ 状況が不明 ■ 行動が不明 □ 地域対策が不明 □ 対策が未実行

災害時の状況（単位：世帯）

④地域の不安

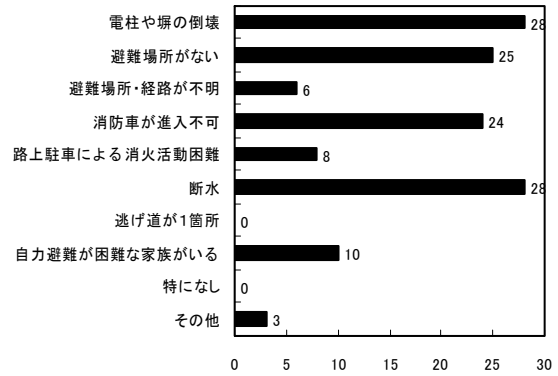
災害時における地域の不安として、「高齢者が多く若者が少ないこと」、「空き家の増加」、「自主防災活動が活発でない」が多い。一方、「頼れる人がいない」、「近所同士の付き合いが希薄」という意見は少なかった。

避難や消火活動に関する不安は、「電柱や塀の倒壊による道路閉塞」及び「断水」が多く、続いて「避難場所がないこと」、「消防車が進入不可」の順に挙げられた。細い路地による避難や消火活動に対する不安が見られる。



地域の不安 (単位: 点)

点: 1位票を3点、2位票を2点、3位票を1点に換算

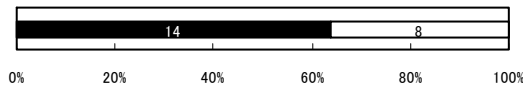


避難・消火活動に関する不安 (単位: 点)

点: 1位票を3点、2位票を2点、3位票を1点に換算

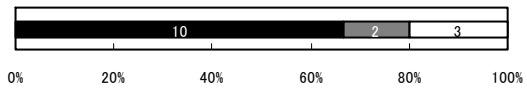
⑤地域の危険箇所

地震以外の災害として、篠山市が作成しているハザードマップについては、6割の回答者が知っていると答えた。そして、広域のハザードマップにはない地域の不安として、土砂災害・風水害に関して「少し不安がある」と回答した人は6割に上る。具体的な場所としては、自由記述欄から見ると、篠山川の堤防についての不安が大きい。



■ 知っている □ 知らない

篠山市ハザードマップの認知 (単位: 世帯)



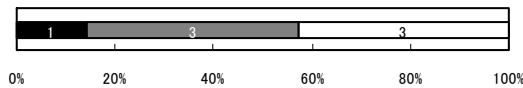
■ 少し不安がある ■ 特になし □ わからない

土砂・風水害に関する地域の危険箇所 (単位: 世帯)

⑥自力避難が困難な人への対応

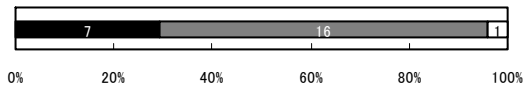
29%の世帯で自力避難が困難な家族がいると回答している。そして、その中で避難を手助けできる人が家族内に「いない」「不十分」の回答が半数以上となっている。

また、そのような自力避難が困難であると思われる人に関する近隣住民間での認知は、「よく知っている」が38%、「何となく知っている」が46%となっており、合計では8割以上と高い。



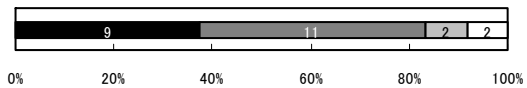
■ いない ■ 不十分 □ 十分いる

家族内での避難を手助けできる人手 (単位: 世帯)



■ いる □ いない □ わからない

自力避難が困難な家族の有無 (単位: 世帯)



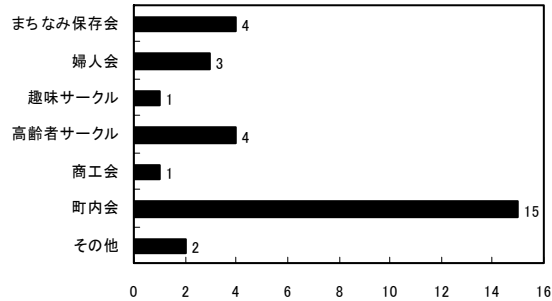
■ よく知っている ■ 何となく知っている □ あまり知らない □ 全く知らない

近隣の自力避難が困難な人の認知 (単位: 世帯)

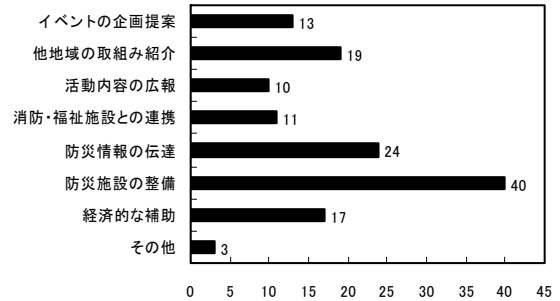
⑦ 日常組織

防災への活用が検討できそうな地域の組織については、「町内会」が最も多く、その他、「保存会」「高齢者サークル」「婦人会」が続く。保存会の防災活動であっても、基本的な日常での活動は町内会単位で活動を行うという意識が見られる。

また、地域での自主的な防災活動のために必要な行政の協力は、「防災施設・器具の整備」が最も多く、「防災情報の伝達」や「他地域の取り組み紹介」など、住民への情報伝達を求める結果となった。



防災の話し合いができそうな組織（単位：世帯）



防災活動のために必要な行政協力（単位：点）
点：1位票を3点、2位票を2点、3位票を1点に換算

⑧ 今後の防災対策

「家庭で行うとよいと思う対策」

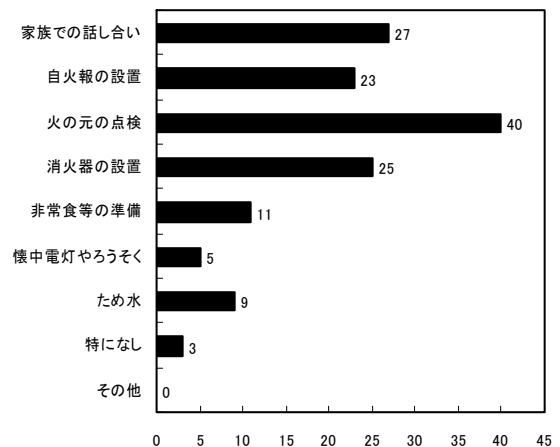
「火の元の点検」を挙げる世帯が最も多く、ついで「家族での話し合い」、「消火器の設置」「自動火災報知機の設置」の回答が多くみられた。

「学区や町内で行うとよいと思う対策」

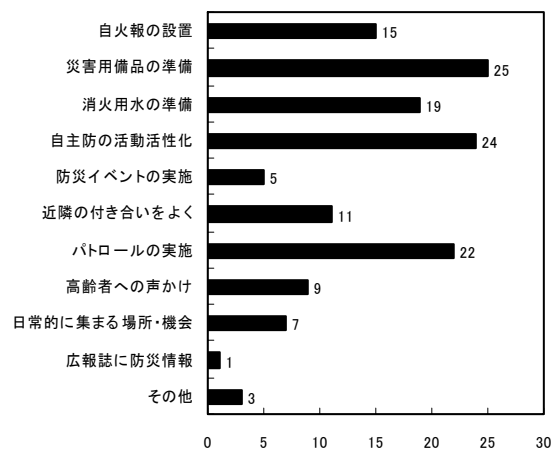
「災害用備品の準備」「自主防災組織の活動活性化」「パトロールの実施」という回答が多かった。これに「消火用水の準備」や「自動火災報知機の設置」がつづいている。

「行政と協力して行うとよいと思う対策」

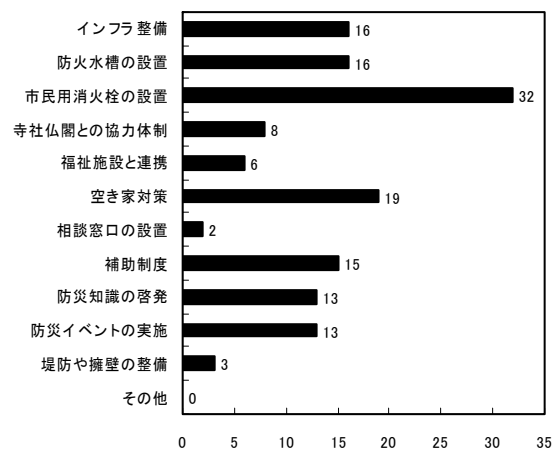
「市民用消火栓の設置」「インフラ整備」といったハードの整備、「空き家対策」「防災イベントの実施」「防災知識の啓発」などソフト対策の両面が挙げられた。また、「防災の取り組みへの補助制度」を求める意見も比較的多くの回答があった。



家庭での対策（単位：点）
点：1位票を3点、2位票を2点、3位票を1点に換算



学区や町内での対策（単位：点）
点：1位票を3点、2位票を2点、3位票を1点に換算



行政と協力する対策（単位：点）
点：1位票を3点、2位票を2点、3位票を1点に換算

⑨地域防災に関する自由記載

「防災訓練の実施」

一年に一回以上防災イベントを実施してほしい／避難訓練・消火栓の使用方法／町内会ごとの防災訓練の実施／厳寒時の消火訓練（消火器の使用方法）必要性等の啓蒙活動／消火訓練を年2回は行いたい／避難経路・場所訓練／消火・避難・誘導・炊き出し

「地域の現状把握」

地域の災害について弱い点、是非対策が必要な事柄を洗い出すことをサークルを作ってやって欲しい。その時にワークショップを取り入れる／消火関連の設備、器具を全員が知るようになる／町内防火用具（消火栓）を全員に知らせる方策、使用法も

「日常からの防災活動」

市民が日常的に参加できる防火対策（火の用心、夜回り等）／イベントはいらない。パトロールなどをして欲しい／地震、火災が発生した時、最小単位として町内会は何をするのか、市は何をするのか、分かりやすく具体的なマニュアルを作ってもらって、地域住民全体がそれを共有することが必要／定期的に町内の消火栓を開放し放水・点検する。町内の消火栓の設置場所、使用方法など、町内の全員の方に理解できるような方策を一考願う／町内の各種団体の会合終了時に必ず呼びかける「火の用心や戸締まり、不審者がいないか」

「防災施設の整備」

防火水槽の設置／消防車の入れない地区に防火水槽を設置する／伝統的建造物の家に消火器を配布する／防火水槽の設置、各家庭の消火器を玄関先に出す（何か困りはしたい）／古い建造物が多いだけに自動火災報知機の設置は法定より早く進めることが重要／堀端の通りには消火の際、堀から水をあげるようになっているが、2/3 以上は消防車の給水管が堀の水面まで届かないところがあるので消火栓の設置をしてもらいたい

「継続した話し合いの場を設ける」

火災、地震、台風、水害等について、自治会役員と行政で何が欠けているか、人、もの、金について細かく真剣に話し合える材料を整備する／市民が日常的に参加できる防災対策の町内会議の開催／自治会で防災について地域のあり方、取り組みについて検討する機会が必要／年に何回か集会所で話し合いをしてほしい

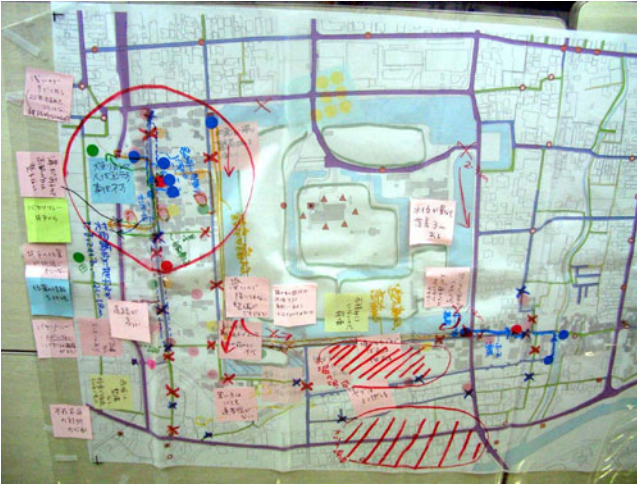
「堤防決壊の不安」

河原町の地蔵尊の下の堤防が崩壊するかも分からない不安がある／上河原町の交通安全地蔵下の堤防が木の根の成長で、石垣が壊れ川の増水時に決壊しないか心配している方が多い。増水時に屋敷側の法面から出水することがあるように聞く

「その他」

堀端の道路拡幅を早急にしてもらいたい。御徒士町の南側から消防車の進入路を早急に作って欲しい／火災時に消防車が片側からしか入れない場所があるので両方から入れるように道路の整備をして欲しい（御徒士町通）／地域内の一人ひとりが災害について今自分のこととして考え、根気よく続けて活動できるグループを結成し、問題点を洗い出し、対策し、災害に強い地域になることが地域の財産となると感じる／地元任せでは困る／各家が、いざというときの備えをしていることが大切だと思う

2) DIG (災害図上訓練) 結果



1 班 (武家町)



2 班 (商家町)



3 班 (商家町)



4 班 (商家町)

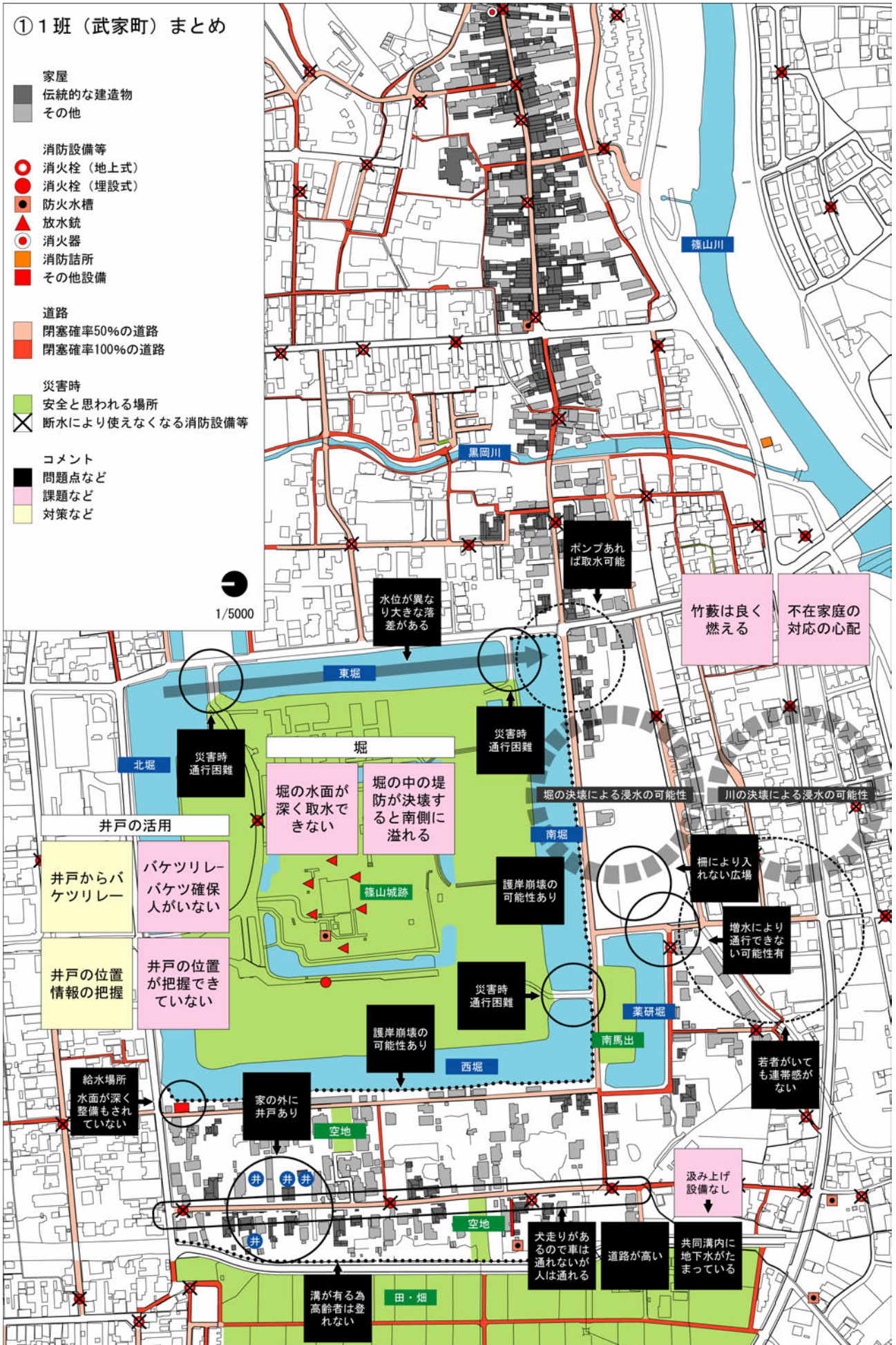
3) 課題と対策

DIG の結果を受け、検討された内容から課題や対策、問題点を抽出する。また、他地域の事例を受け、篠山でも実行できそうな対策のアイデアを整理する。

① 1班（武家町）まとめ

- 家屋
 - 伝統的な建造物
 - その他
- 消防設備等
 - 消火栓（地上式）
 - 消火栓（埋設式）
 - 防火水槽
 - ▲ 放水銃
 - 消火器
 - 消防詰所
 - その他設備
- 道路
 - 閉塞確率50%の道路
 - 閉塞確率100%の道路
- 災害時
 - 安全と思われる場所
 - ⊗ 断水により使えなくなる消防設備等
- コメント
 - 問題点など
 - 課題など
 - 対策など

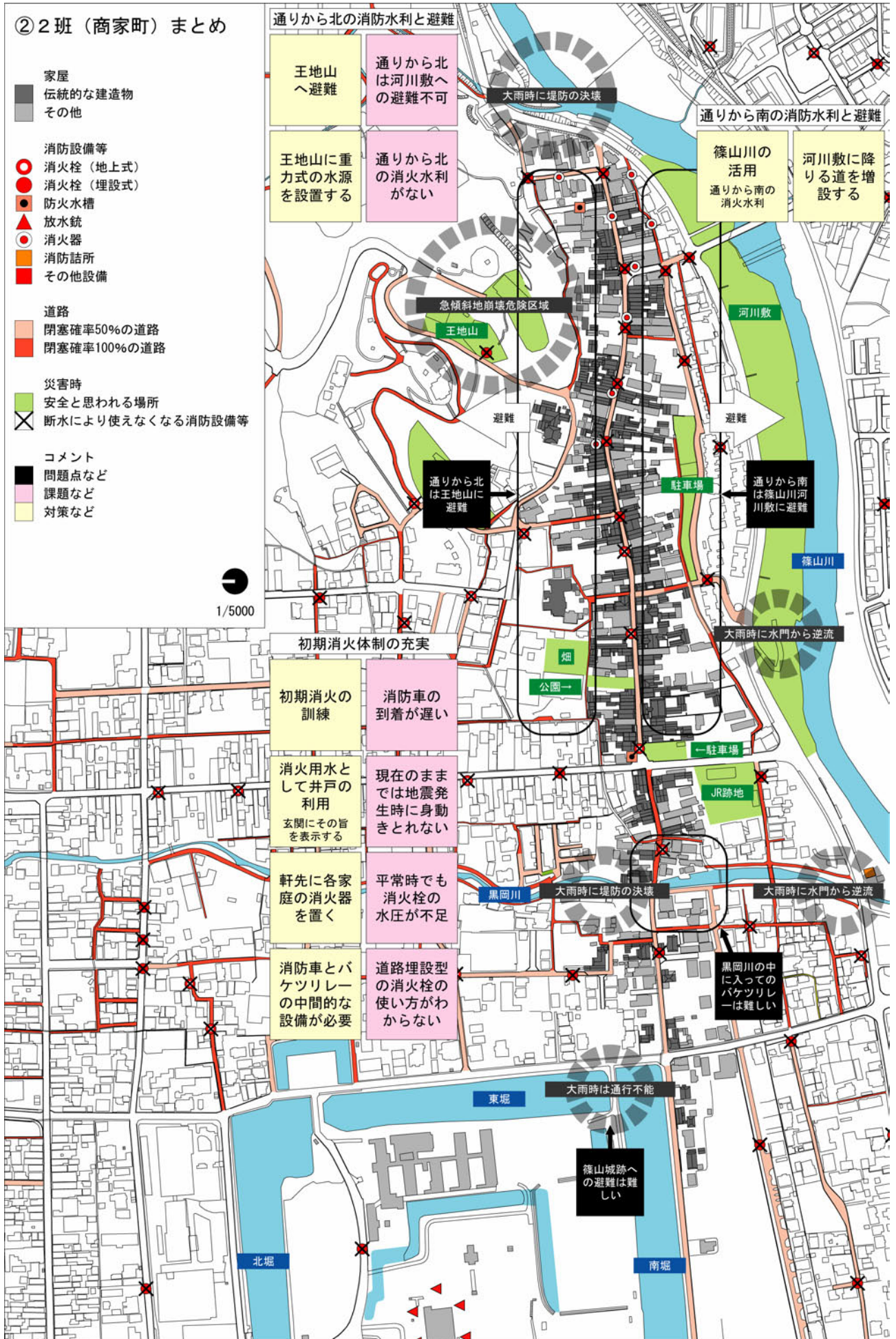
1/5000



② 2班（商家町）まとめ

- 家屋
 ■ 伝統的な建造物
 ■ その他
- 消防設備等
 ● 消火栓（地上式）
 ● 消火栓（埋設式）
 ■ 防火水槽
 ▲ 放水銃
 ● 消火器
 ■ 消防詰所
 ■ その他設備
- 道路
 ■ 閉塞確率50%の道路
 ■ 閉塞確率100%の道路
- 災害時
 ■ 安全と思われる場所
 ✕ 断水により使えなくなる消防設備等
- コメント
 ■ 問題点など
 ■ 課題など
 ■ 対策など

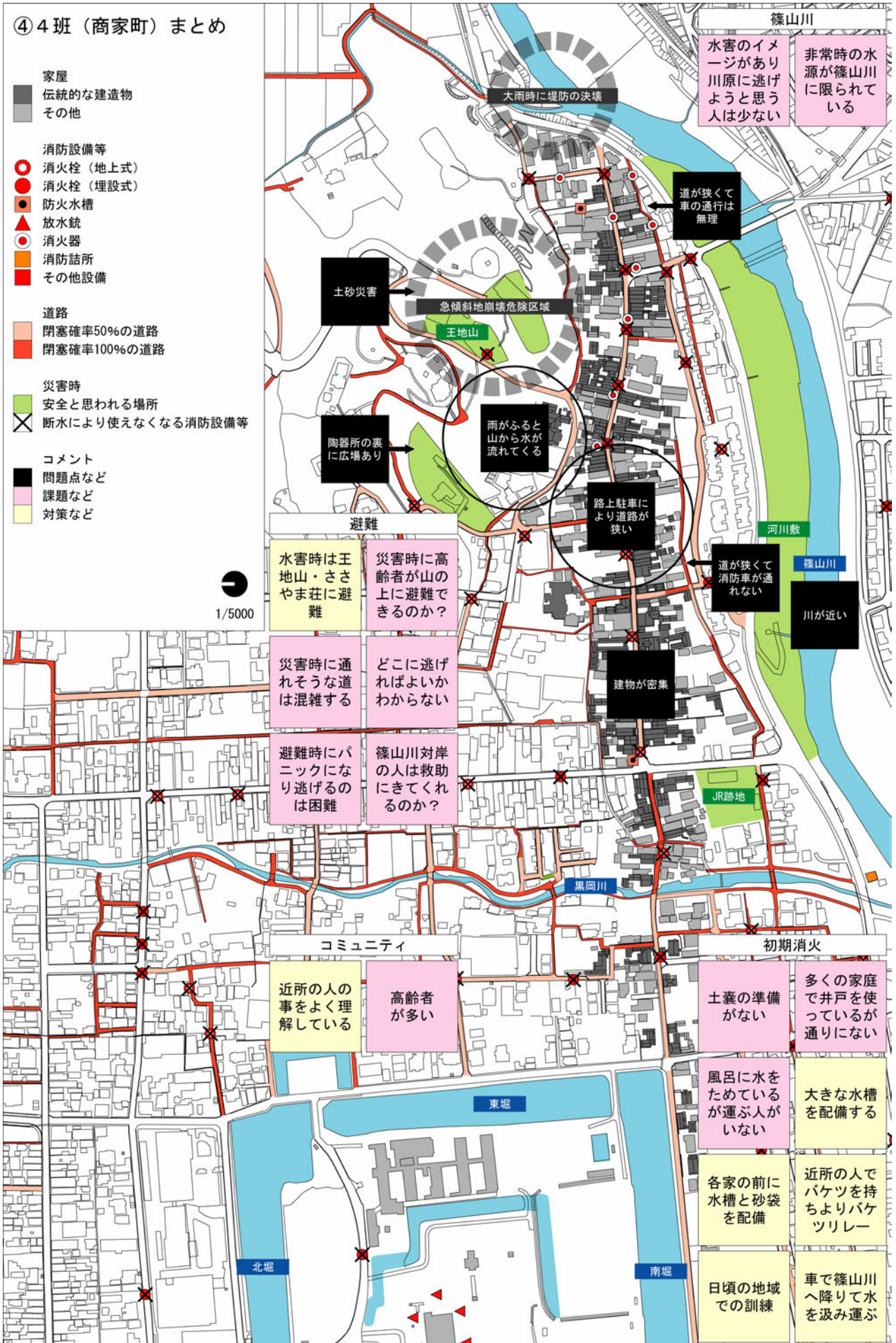
1/5000



③3班（商家町）まとめ



④ 4班（商家町）まとめ



⑤課題・問題点のまとめ

	1班・武家町	2班・商家町	3班・商家町	4班・商家町
伝統的建造物における課題			路地に面した建物が潰れると避難が困難	建物が密集
地域防災上の課題	<p>井戸の位置が把握できていない</p> <p>篠山城跡へは災害時通行困難なルートがある</p> <p>水面が深く、堀から取水できない</p> <p>外堀の護岸は災害時に崩壊の危険性あり</p> <p>堀の中の堤防が決壊すると南側に溢れる</p> <p>北堀・東堀・南堀には水位が異なり大きな落差がある</p> <p>竹藪はよく燃える</p> <p>南堀はポンプがあれば取水可能</p> <p>南堀端に柵により入れない広場がある</p> <p>城西線へは溝があり高齢者は登れない</p> <p>西堀の給水場所は水面が深く、整備もされていない</p> <p>御徒士町通の共同溝に水がたまっているが汲み上げ設備がない</p> <p>御徒士町通の道路面が高い</p>	<p>河原町通から北は河川敷への避難ができない</p> <p>平常時でも消火栓の水圧が不足</p> <p>河原町通から北の消火水利がない</p> <p>道路埋設型の消火栓の使い方が不明</p> <p>消防車の到着が遅い</p> <p>黒岡川の中に入っただけのパケツリレーは難しい</p> <p>篠山城跡への避難は困難</p>	<p>道が狭い</p> <p>消火栓の水圧が低い</p> <p>消防車が表通りにこれない</p> <p>篠山川の水位が上がれば黒岡川が溢れる</p> <p>篠山川の問題 水量・地盤・堤防・水門</p> <p>井戸のポンプパイプは細く消防隊の利用は困難</p> <p>消火器の不足</p> <p>地下水の水脈が低い</p> <p>違法駐車</p> <p>黒岡川の取水には水深やピットが必要</p>	<p>路上駐車により道が狭い</p> <p>土嚢の準備がない</p> <p>非常時の水源が篠山川に限られている</p> <p>多くの人が井戸を使っているが通りにない</p> <p>災害時に通れそうな道は混雑する</p> <p>道が狭く消防車が通れない</p>
地域社会上の課題	<p>パケツリレー・バケツの確保人の確保</p> <p>アパートに住む若者との連帯感がない</p> <p>不在家庭の対応が心配</p>	<p>現在のままでは地震発生時に身動きがとれない</p>	<p>近所に救助できる人がいない</p> <p>可搬ポンプは一般の人は使えない</p>	<p>パニックになり避難が困難</p> <p>災害時に高齢者が山の上に避難可能か</p> <p>どこに避難すればよいかかわからない</p> <p>風呂に水をためているが運ぶ人がいない</p> <p>高齢者が多い</p>

⑥対策に向けたアイデア

凡例： □…ソフトに関する事、 □…ハードに関する事

	住民ができること	行政と協力すること																								
1班・武家町	<table border="1"> <tr> <td>防災訓練を地域のイベントに盛り込む</td> <td>防災を考える機会を多く作る</td> <td>住民が参加する講習会開催</td> <td>戦時中のような防災教育プログラム</td> </tr> <tr> <td>防災組織の認知を進める</td> <td>井戸の配置マップを作成</td> <td>近所で助け合う仕組み作り</td> <td>独居老人避難を手助けする仕組み作り</td> </tr> <tr> <td>アパートに住む若い人との連携</td> <td>住民が使える消火栓や防災設備</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	防災訓練を地域のイベントに盛り込む	防災を考える機会を多く作る	住民が参加する講習会開催	戦時中のような防災教育プログラム	防災組織の認知を進める	井戸の配置マップを作成	近所で助け合う仕組み作り	独居老人避難を手助けする仕組み作り	アパートに住む若い人との連携	住民が使える消火栓や防災設備			<table border="1"> <tr> <td>自治会単位で情報が伝わるようにする</td> <td>消火栓の使い方講習会を開催</td> <td>堀の水を消火用水として使えるよう改修</td> <td>外堀護岸を土の浸食がないように整備</td> </tr> <tr> <td>火災報知設備の整備 2～3軒単位のグループ型</td> <td>黒岡川におりれるように</td> <td>共同溝の整備</td> <td>エンジン式の手動ポンプ&ホース4～5本</td> </tr> <tr> <td>空地や駐車場の災害時の使い方を検討</td> <td>側溝に水を流す</td> <td>堀へおりれるように階段をつける</td> <td>デカンショ祭で防災について住民へ周知</td> </tr> </table>	自治会単位で情報が伝わるようにする	消火栓の使い方講習会を開催	堀の水を消火用水として使えるよう改修	外堀護岸を土の浸食がないように整備	火災報知設備の整備 2～3軒単位のグループ型	黒岡川におりれるように	共同溝の整備	エンジン式の手動ポンプ&ホース4～5本	空地や駐車場の災害時の使い方を検討	側溝に水を流す	堀へおりれるように階段をつける	デカンショ祭で防災について住民へ周知
防災訓練を地域のイベントに盛り込む	防災を考える機会を多く作る	住民が参加する講習会開催	戦時中のような防災教育プログラム																							
防災組織の認知を進める	井戸の配置マップを作成	近所で助け合う仕組み作り	独居老人避難を手助けする仕組み作り																							
アパートに住む若い人との連携	住民が使える消火栓や防災設備																									
自治会単位で情報が伝わるようにする	消火栓の使い方講習会を開催	堀の水を消火用水として使えるよう改修	外堀護岸を土の浸食がないように整備																							
火災報知設備の整備 2～3軒単位のグループ型	黒岡川におりれるように	共同溝の整備	エンジン式の手動ポンプ&ホース4～5本																							
空地や駐車場の災害時の使い方を検討	側溝に水を流す	堀へおりれるように階段をつける	デカンショ祭で防災について住民へ周知																							
2班・商家町	<table border="1"> <tr> <td>毎月防災の日を決めて活動</td> <td>消防署と連携(指導・講習)</td> <td>消火活動に利用できる井戸のある家庭は玄関に表示</td> <td>利用可能な井戸の調査</td> </tr> <tr> <td>「火の用心」で町内を回る</td> <td>防災思想を植え付ける</td> <td>バケツの配置(水・砂)</td> <td>水がめを所々に配置</td> </tr> <tr> <td>軒先に各家庭の消火器を置く</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	毎月防災の日を決めて活動	消防署と連携(指導・講習)	消火活動に利用できる井戸のある家庭は玄関に表示	利用可能な井戸の調査	「火の用心」で町内を回る	防災思想を植え付ける	バケツの配置(水・砂)	水がめを所々に配置	軒先に各家庭の消火器を置く				<table border="1"> <tr> <td>川から水を引き所々に水源をつくる</td> <td>側溝にセキ板を設け取水可能なように</td> <td>下河原町の公園に池を設置</td> <td>王地山に防火水槽の設置</td> </tr> </table>	川から水を引き所々に水源をつくる	側溝にセキ板を設け取水可能なように	下河原町の公園に池を設置	王地山に防火水槽の設置								
毎月防災の日を決めて活動	消防署と連携(指導・講習)	消火活動に利用できる井戸のある家庭は玄関に表示	利用可能な井戸の調査																							
「火の用心」で町内を回る	防災思想を植え付ける	バケツの配置(水・砂)	水がめを所々に配置																							
軒先に各家庭の消火器を置く																										
川から水を引き所々に水源をつくる	側溝にセキ板を設け取水可能なように	下河原町の公園に池を設置	王地山に防火水槽の設置																							
3班・商家町	<table border="1"> <tr> <td>防災リーダーを決める</td> <td>防災について継続的に考えていく</td> <td>災害に限らず日常的に人命を守ることを意識する</td> <td>独居高齢者の情報を把握緊急連絡先等但し情報開示の問題は残る</td> </tr> <tr> <td>青年会等の組織を通じての意識の浸透</td> <td>組織づくり</td> <td>火災発生が周囲にすぐ伝わる火災報知器</td> <td>消火器を各家各町で設置</td> </tr> <tr> <td>救出時における施錠の問題</td> <td>住民同士で寝室等の把握</td> <td>手押しポンプの維持管理は継続的な利用が大切</td> <td></td> </tr> </table>	防災リーダーを決める	防災について継続的に考えていく	災害に限らず日常的に人命を守ることを意識する	独居高齢者の情報を把握緊急連絡先等但し情報開示の問題は残る	青年会等の組織を通じての意識の浸透	組織づくり	火災発生が周囲にすぐ伝わる火災報知器	消火器を各家各町で設置	救出時における施錠の問題	住民同士で寝室等の把握	手押しポンプの維持管理は継続的な利用が大切		<table border="1"> <tr> <td>隣保割を検討</td> <td>堤防におけるルートを増設</td> <td>手押しポンプの設置(景観整備)</td> <td>篠山川から水路を引っ張る</td> </tr> <tr> <td>防火水槽とその上にバケツ(景観整備)</td> <td>丘の上に水槽</td> <td>黒岡川にスロープ設置</td> <td></td> </tr> </table>	隣保割を検討	堤防におけるルートを増設	手押しポンプの設置(景観整備)	篠山川から水路を引っ張る	防火水槽とその上にバケツ(景観整備)	丘の上に水槽	黒岡川にスロープ設置					
防災リーダーを決める	防災について継続的に考えていく	災害に限らず日常的に人命を守ることを意識する	独居高齢者の情報を把握緊急連絡先等但し情報開示の問題は残る																							
青年会等の組織を通じての意識の浸透	組織づくり	火災発生が周囲にすぐ伝わる火災報知器	消火器を各家各町で設置																							
救出時における施錠の問題	住民同士で寝室等の把握	手押しポンプの維持管理は継続的な利用が大切																								
隣保割を検討	堤防におけるルートを増設	手押しポンプの設置(景観整備)	篠山川から水路を引っ張る																							
防火水槽とその上にバケツ(景観整備)	丘の上に水槽	黒岡川にスロープ設置																								
4班・商家町	<table border="1"> <tr> <td>消火栓などの情報、位置、使い方</td> <td>14組の隣保長が地区の防災設備について把握する</td> <td>女性が中心となった勉強会を開催</td> <td>消火器の使い方講習会を毎年開催する</td> </tr> <tr> <td>家の前に防火水槽と消火用砂袋を置く</td> <td>家具の固定(独居老人等)</td> <td>民生委員によるチェック</td> <td>2段、3段の棚をつなげておく</td> </tr> <tr> <td>簡単にできる対策を色々教えてほしい事例のお知らせ(回覧板等)</td> <td>家具が倒れつきそうな場所で寝ない</td> <td>各所から水をとれるようにしておく</td> <td>使える井戸を利用する</td> </tr> </table>	消火栓などの情報、位置、使い方	14組の隣保長が地区の防災設備について把握する	女性が中心となった勉強会を開催	消火器の使い方講習会を毎年開催する	家の前に防火水槽と消火用砂袋を置く	家具の固定(独居老人等)	民生委員によるチェック	2段、3段の棚をつなげておく	簡単にできる対策を色々教えてほしい事例のお知らせ(回覧板等)	家具が倒れつきそうな場所で寝ない	各所から水をとれるようにしておく	使える井戸を利用する	<table border="1"> <tr> <td>役所や近所の人がお手伝いしてくれるサービス</td> <td>河川整備を進める(合流地点)</td> <td>川原に降りられるスロープ</td> <td>高低差を活かした水道電気に頼らない設備</td> </tr> <tr> <td>堤防に消火栓を設置</td> <td>川の水をポンプアップして水路を整備</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	役所や近所の人がお手伝いしてくれるサービス	河川整備を進める(合流地点)	川原に降りられるスロープ	高低差を活かした水道電気に頼らない設備	堤防に消火栓を設置	川の水をポンプアップして水路を整備						
消火栓などの情報、位置、使い方	14組の隣保長が地区の防災設備について把握する	女性が中心となった勉強会を開催	消火器の使い方講習会を毎年開催する																							
家の前に防火水槽と消火用砂袋を置く	家具の固定(独居老人等)	民生委員によるチェック	2段、3段の棚をつなげておく																							
簡単にできる対策を色々教えてほしい事例のお知らせ(回覧板等)	家具が倒れつきそうな場所で寝ない	各所から水をとれるようにしておく	使える井戸を利用する																							
役所や近所の人がお手伝いしてくれるサービス	河川整備を進める(合流地点)	川原に降りられるスロープ	高低差を活かした水道電気に頼らない設備																							
堤防に消火栓を設置	川の水をポンプアップして水路を整備																									